

Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2019

第24号



Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2019

第24号

図書館 サ.エ.ラ

2018 図書館記録写真

enjoy ebook everyday
いつでもどこでも電子ブックキャンペーン
書店とタイアップしたブックカバー



図書館学習支援講座「書評のススメ！」



講演会 「ぼくが『キャプテン翼』をアラビア語に翻訳しました。」

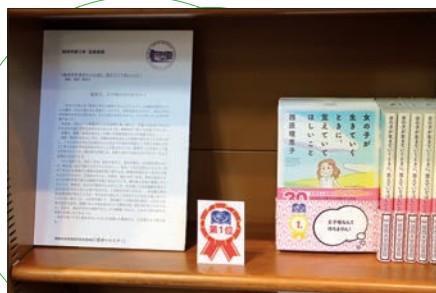
関連展示



講演会 「地球の歩き方～制作の裏側から電子ブックの有効活用まで～」



関連企画
KANDAI
OBI-1グランプリ



関連企画
MARUZEN & ジュンク堂書店での陳列、販売



2018.6.18. 大阪府北部地震
B1 書庫 洋書

ポスター コレクション

関西大学図書館 @Kandai_Lib

関西大学図書館のTwitterをはじめました!

Follow me!

関西大学図書館の利用情報、イベント、ガイダンスなどのお知らせやその他利用者に役立つ情報を発信します!

アカウント名: @Kandai_Lib
URL: https://twitter.com/Kandai_Lib

関西大学図書館

QRコードからもアクセス可能!

2018.5.18

図書館学習支援講座「書評のススメ!」

関西大学図書館学習支援講座
「書評のススメ!」企画展示

関西大学図書館では、2018年秋季学期に丸高雄松堂、編集工学研究所と協働し、「書評のススメ!」という学習支援講座を実施しました。

講座を受講した17名の学生は、「新入生に贈る100冊」の中から自らの手で選んだ本と向き合い、「書評」と「本の帯」(リコメンド文&キヤッチコピー)を完成させました。

ここでは、参加した学生が書評を書くため売場用に用いた本に帯を書き、書評とおわせて展示しています。是非、彼らの学習成果をご覧ください。

こちらの本は貸出不可となっております。あらかじめご了承ください。

なお、2019年1月16日(木)~2月15日(金)の期間、これらの帯が巻かれた書籍が丸高雄松堂梅田店2階で展示・販売されます。こちらへも足をお運びください。

KANDAI OBI-1グランプリ

あなたももっとも「読みたい」と心動かされた「本の帯」に一票を投じてください。

KANDAI OBI-1グランプリは、学生自らが推薦する本を一人でも多くの人に読んでもらいたいという思いから知恵を絞って考えた「本の帯」のコンテストです。

実際に、この帯を巻いた本が、梅田茶屋町OMARUZEN&ジュンク堂書店の店頭に並び販売されることとなります。

投票期間
2018年
11月13日(火) ~21日(水)

投票はインフォメーションシステムから
「大学サービス」→「検索・アンケート」→「アンケート」→「KANDAI OBI-1グランプリ」
※票の送り先は、関西大学図書館ウェブサイトから <https://open.kandai-u.ac.jp/obi/>とさせていただきます。

各種ガイダンス

図書館 ミニガイダンス
7月 オーダーメイド ガイダンス
データベース21種から

「学術論文ってなに? どうやって読める?」
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」

全巻のデータベースで「中」で公開されているものがないかな? →
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」

その期間、お申し込みデータベースを持って戻してあげます!
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」

※10分以内
※予約できる時間帯は
※予約できる時間帯は
「おもしろい分らない、わからないデータベースありますか?」

場所: 総合図書館1階1Fフランスカウンター
日時: 月曜~土曜 10~17時 随時受付
参加費: 無料
対象者: 本学学生及び教職員

図書館
ミニ・ガイダンス
10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

各ガイダンスの開催は
koolLABOで!

※下記のメニューからご希望のものをお選びください。
20分程度で事前予約が利用いたします。

分館展示企画

だまされないための
情報力

展示期間 2019年1月~3月 ミュース大学図書館

就活、応援します!
~就職活動に役立つ本を集めました~

高槻キャンパス図書館 1月ミニ展示

アスリートのメンタル&コンディション
~環境を整える 栄養・コーチング・身体・メンタル

高槻キャンパス図書館 2018年10月~12月 全館展示

学術データベース Web of Science 講習会
情報の洪水から、学生を救え!
本日に読まなければならない論文が30分で発見する方法

・情報化が進む現代の学生は、高いITリテラシーを持っていますが、残念なことに「論文を探すときに『ググる』だけ」「図書館にも行かない」という学生が増えています。

・研究室の学生を指導するのは先生方の重要な役割の一つですが、今の日本の大学教育の現状は、指導時間確保が5%しかありません。限られた時間内で学生に「正しい論文の探し方・管理の仕方・引用の仕方」を丁寧に教えるのは非常に困難な状況です。

・そこで今回、図書館では、研究を始める学生や、学生を指導する先生方に役立つ講習会を開催しました。Web of ScienceとEndNoteオンラインは、「重要文献をすばやく見つける」「それを見つけたらどう取り出せる」ということで、タイムマネジメントの強い味方です。もちろん、ご自身の研究に役立ちます。

※今までになく自由な場で使っていた方が、今回の講習会では、大学の提供するツールを一度、活用してみませんか?

●日時 2018年11月19日(月) 13:00 ~ 14:30
●場所 総合図書館1階 ワークショップ・エリア
●対象 学部長、大学院長、教職員
●講師 フラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社 石塚 幸よみ 氏
●申込期間 2018年10月17日(水) ~ 11月2日(月)
「大学サービス」→「検索・アンケート」→「検索」→「Web of Science講習会」
●持ち物 ノートパソコン(PC貸与可)
●内容
・PCを使って実習をします。
・情報検索ができるWeb of Scienceとは
・重要論文の探し方 - 6つのステップ
・文献管理方法/情報検索/引用リストの作成方法
・検索結果をどのように活用か
・ご自身の専門分野とジャーナル/インパクトファクターの傾向を知る方法 など

ミューズ大学図書館
ミニ・ガイダンス

5月22日(月) ~ 23日(火)
5月14日(金) ~ 15日(土)

土日を除く10時~16時30分までカウンターで受付

※下記のメニューからご希望のものをお選びください。
20分程度で事前予約が利用いたします。

新着雑誌情報	文庫のまがしり方(全5巻)	各データベース案内
刊行本 CINII Articles magazineplus Web of Science LEX/DBの検索 e-Journal LEX/DBインターネット D1-Law.com 日本法令索引 失敗知識データベース ジャパンナレッジ Lib	新着雑誌情報 Web of Science LEX/DBの検索 e-Journal LEX/DBインターネット D1-Law.com 日本法令索引 失敗知識データベース ジャパンナレッジ Lib	新着雑誌情報 Web of Science LEX/DBの検索 e-Journal LEX/DBインターネット D1-Law.com 日本法令索引 失敗知識データベース ジャパンナレッジ Lib

ラーニング・コモンズ

グループ学習に役立つ機器・備品
貸出できます!

ノートパソコン
プリンター
電子黒板
無線LANルーター
無線LANアクセサリ
無線LANアダプタ
無線LANアクセサリ
無線LANアダプタ
無線LANアクセサリ
無線LANアダプタ

貸出の申し込みは貸出カウンターで! コモンズカウンターまで!

最大3時間借りられます。(貸出時間: 9:00~19:50)

図書館フォーラム Library Forum

第24号 2019 目次

口絵 図書館サ・エ・ラ (2018 図書館記録写真)
ポスターコレクション

虫ぼし抄

関西大学図書館 図書館学習支援講座「書評のススメ！」の実施について…………… 北野 正人 …… 1

書評のススメ！ …………… 伊藤 智哉・大滝 あずほ・加藤 菜乃・金井 俊之・
河内 冬馬・窪田 将大・小林 隆人・白井 彪史・
田島 美紀・田中 理香子・谷口 楓果・土居 りさ子・
長束 香蓮・平田 大祐・福留 ちさと・松石 なるみ・
山田 結以 …………… 4

〈図書館自己点検・評価について〉…………… 関西大学図書館自己点検・評価委員会 …… 15

図書館活動報告

2018年度図書館活動報告…………… 34

図書館出版物案内…………… 38

規程・内規・要領の改正

2018年度に改正のあった図書館諸規定…………… 39

『図書館フォーラム』投稿要項…………… 41

編集後記

関西大学図書館 図書館学習支援講座 「書評のススメ!」の実施について

北野 正人

2018年度秋学期、関西大学図書館では、丸善雄松堂株式会社、株式会社編集工学研究所、株式会社丸善ジュンク堂書店と協働し、以下のとおり「書評のススメ!」という学習支援講座を実施した。

1. 趣旨

学生にとって身近なアプリなどを用い、読書に関する8つのMISSIONをクリアすることで、リコメンド(要約・紹介文)とキャッチコピーを作成し「読む力」、「書く力」を養成する。最終的にはメールラウンジを用い、書評を完成させていくことで、読み手にその本を読みたい気持ちにさせる「伝える力」を身につけることが目標となる。

2. 受講生数

18名

最終目標である書評の提出者は17名

3. 講座概要

(1) 実施場所

総合図書館1階ラーニングcommons内ワークショップエリア

(2) 講師

大木 とも子 氏(丸善雄松堂株式会社/ISIS編集学校 師範代)ほか

(3) スケジュール、内容

【第1回】10月24日(水) 4限 14:40~16:10

「読むこと」と「書くこと」が、「情報を編集する力」によってつながっていることをふまえ、スマートフォンで、読書トレーニングアプリ「メクリ」を実際に用い「新入生に贈る100冊」の中から自分が読んでみたいと思う1冊の本を、まず選定する。

「メクリ」は、「MISSION」(質問)に回答することで、ナビゲーターから「指南」(アドバイスやヒント)が返ってくる仕組みとなっており、本講座中に、「目次を読む」、「キーワードを集める」、「キーワード

を探して本の中を探索する」といった5つの「MISSION」をクリアする。

<第1回の課題>

第2回までに、6つ目の「MISSION」(本文を読む)を終了する。

【第2回】10月31日(水) 4限 14:40~16:10

これまでクリアしてきた「MISSION」への回答をふまえ、本の「キャッチコピー」と「リコメンド文」(200字程度:本の紹介・要約)を作成する。

さらに、書評(800字~1,000字)の作成にあたりパソコンを使ってアクセスするラウンジという教室型サイト「Edit Cafe」の利用ガイダンスを行う。

<第2回の課題①> 期限:11月7日(水)

第2回で作成したキャッチコピーとリコメンド文に対し、講師からアドバイスをを行い、内容の見直しを行う。

<第2回の課題②> 期限:11月14日(水)

「Edit Cafe」を通じ、講師の指南(アドバイス・ヒント)を参考にしながら書評を完成させる。

【第3回(講評会)】

11月28日(水) 4限 14:40~16:10

学内外から識者を招き選考を行った「書評のススメ!」大賞の表彰式および講評会、あわせて本の「キャッチコピー」と「リコメンド文」を本の帯とし、インターネットを通じて学内外で投票を行った「KANDAI OBI-1グランプリ」の結果発表を行う。

なお、書評の選考者、講評者は次の5名である。

- 野村 育弘 氏(株式会社編集工学研究所 代表取締役社長)
- 中村 育広 氏(MARUZEN & ジュンク堂書店 梅田店店長)
- 大木 とも子 氏(丸善雄松堂株式会社/ISIS編集学校師範代)
- 深井 麗雄 氏(関西大学総合企画室 広報課)



広報アドバイザー／元毎日新聞編集局長)

- 寺島 紀衣 氏 (関西大学ライティングラボ アカデミック・アドバイザー)

(4) 関連企画

① KANDAI OBI-1 グランプリ

〔2018年11月13日(火)～21日(水)〕

講座の実施期間中に、学内外を問わず受講生が作成した本の帯(キャッチコピーとリコメンド文)の投票をWEBアンケートで実施する。

② 総合図書館での展示

〔2019年1月16日(水)～2月15日(金)〕

帯を付けた本を総合図書館にて書評とあわせて展示を行う。

③ MARUZEN & ジュンク堂書店での陳列、販売

〔2019年1月16日(水)～2月15日(金)〕

「書評のススメ!」コーナーを1階に設け、帯を付けた形で本を陳列、販売、あわせて書評も紹介する。コーナーの設置については、書店員の指導の下、実際の店舗での展示コーナーづくりも体験する。



④ 2019年度 新生入生に贈る100冊への書評掲載

〔2019年4月1日(月)〕

入学式で配布される冊子「新生入生に贈る100冊(2019年度版)」に「書評のススメ!」各賞

受賞者3名の書評を掲載する。

⑤ 図書館フォーラムへの書評掲載

〔2019年10月31日(木) 発行〕

受講生全員の書評を関西大学図書館発行の紀要「図書館フォーラム第24号」に掲載する。

4. 担当者所見

(1) 実施の経緯

本取組は、現代の教育界に課せられた課題といえる「思考力」、「判断力」、「表現力」を学生が身につけるため、関西大学図書館の豊富な資源を有効活用できないかと考えたことに端を発する。一方、本学の芝井敬司学長が、学部入学式における式辞において、読書の啓発に触れていただいていることもふまえ、その流れを加速させるような取組ができないかとの思いがあった。

他大学の状況などを調査する中で、単に思ったことを書き連ねる「読書感想文」ではなく、他者に伝えることが前提となる「書評」の存在に行きあたった。1冊の本にどっぷりと浸り、その思いを書評にしたためる中で、学生は「読む」、「書く」力だけでなく「考える」、「伝える」力が身につくのではないかと考えた。

先に述べた通り、芝井学長の意向の下、本学では「新生入生に贈る100冊の本」という取組を2018年度より行っており、これらを活用した形で書評講座の素案を作成した。素案については割愛するが、書評を作成するという本旨を除いて、今回行った「書評のススメ!」のスキームとは、まったくの別物である。これはこれで面白い取組であるとの自負があるので、機が熟したら具現化を試みたい。

(2) 協働体制

本取組が実施できたのは、日頃よりやりとりがある丸善雄松堂のご尽力による賜物である。図書館とは紀伊國屋書店と三者協働で電子ブックのTrial Reading「enjoy ebook everyday—いつでもどこでも電子ブック—」を行っていたご縁から、実施について相談させていただいた。グループ会社であり、他大学の図書館において魅力的かつ意欲的な取組みを行い、様々な知見とノウハウをもつ編集工学研究所に参画いただいたことが、本取組の方向性を決定づけた。

書評を作成するプロセスの中で立派な「本の帯」

を仕立てることに加え、インターネットを通じ、広く学内外に投票を呼びかけられたこと、ましてや MARUZEN & ジュンク堂書店梅田店という実書店を巻き込んで書評を展示するとともに、その帯を巻いて販売するといった「挑戦」を行えたこと（売り上げにも相応の貢献ができた聞き及んでいる）はひとえに編集工学研究所のご協力なくしてはありえなかった。学内外から少なからず反響があり、大学図書館の可能性、本学学生の能力を内外に示せたことは、協業の賜物であることはいうまでもない。

また、翌年度の「新入生に贈る 100 冊の本」に掲載いただく関係から広報課、学生が書評の精度を高めるよう指導、助言をいただくため教育推進部とも連携をはかった。

(3) 学生

本取組の主役はいうまでもなく「学生」である。募集段階では、学生に身近なアプリを用いることや関連企画を切り口に訴求をはかった反面、講座の性質から「途中辞退できない」、「講座の参加には課題をクリアする必要がある」、「好きな 1 冊を読めるとは限らない」など相応のハードルを事前提示した。

学生が負担に感じ、果たして応募があるのか危惧していたが、結果的には、定員（10 名）を倍近く上回る応募があった。応募者の受講動機は、「本や読書が好き」、「文章力や伝える力を身につけたい」、「書評を書いてみたい」という想定範囲から「卒業にあたり何か形を残したい」といった思い出づくりまで、多彩であったが、結果的に 1 名を除き、講座を修了することができた。彼らの成果である書評については、是非、本フォーラムでご確認いただきたい。

5. 成果

本取組では、当初想定していなかったものも含めいくつかの成果があったと考えている。

(1) タテのつながり

本取組は、講座形式としているが、反転学習の要素も含めており、受講生は、リコメンド文や書評を講座外の時間に作成せざるをえず、期日を厳守し、提出を重ね、ブラッシュアップすることで完成につなげた。その添削や指導を行うのは、編集工学研究所が提供する編集術のノウハウを培った大木氏をはじめとする師範代と呼ばれる方々であり、受講生個々と何度もやりとりを重ね、対応は深夜に及ぶこともあった。学生の熱意に引張られたとおっしゃ

ってはいるが、師範代の方々の姿勢には、取組をコーディネートする立場として頭が下がる思いであった。

経費の都合上、講習会にすべての師範代の方に参加いただけなかったが、受講生との間には、少なからず師弟関係が構築されていた。

(2) ヨコのつながり

最目も入っているが、受講生は、それぞれの目的意識の下、一冊の本に正面から向き合い、アウトプットを完成させた。

図書館ならではの学習支援を模索する中、講座期間中や MARUZEN & ジュンク堂書店梅田店での陳列など受講生と接する機会を通じ、潜在的利用者を含めた利用促進だけでなく、図書館や本に愛着をもつコアな学生へのアプローチが不可欠と感じた。

なお、受講生は、講座終了後も有志で読書会を開くなど自発的な活動を行っており、図書館としてサポートを行っていきたい。

(3) 費用対効果

本取組の難点は、相当のマンパワーを伴う手厚い内容であるものの、その労力から 20 名弱の受講生にしか対応できないことがいえる。しかし、学生が習得したスキルや貴重な経験はもとより、受講生の成果を振り所に学内外に広く発信したことで、図書館ができる大学への貢献のあり方を示せたのではと考えている。

ひとえに丸善雄松堂、編集工学研究所、丸善ジュンク堂書店との協業あってのものであるが、学内で取組を完結させるより、多くの副次的な効果が見出せたことは事実である。

6. おわりに

図書館や店頭で書評や本の帯を見た学生、高校生、保護者、卒業生、ひいては一般の方々に関大生や総合図書館の「現在」が伝わればとの思いで取り組んだ。「読書離れ」という共通の敵に対して図書館という狭い範疇に収まることなく、認識を共有できるものとスクラムを組み、対峙していく必要性を痛感している。

膨大な資源を有する図書館の可能性は計り知れない。今後も学生ファーストを念頭に置き、大学や社会を取り巻く課題解決に少しでもつながるような取組を能動的に行っていきたい。

(きたの まさと 図書館事務室)

書評のススメ！

- 学習支援講座「書評のススメ！」を受講した学生が作成した書評を掲載します。
- 掲載順序は執筆者の五十音順、執筆者の学年表記は受講当時の学年です。
- 表記にゆれがありますが、執筆者の表現を優先しています。

せんせい、「社会」ってなあに？

伊藤 智哉

『大人のための社会科：未来を語るために』

井出英策、宇野重規、坂井豊貴、松沢裕作
有斐閣 2017

「社会科は何のために勉強するの？」

塾でアルバイトをしている私は、生徒からこのような質問を投げ掛けられることが多々ある。私はこの質問に今まで上手く答えることができなかった。勉強嫌いな子どもにどのように答えれば、「社会科」に興味を持ってもらえるだろうか？そんな悩みを抱えているときにこの本と出会った。

そもそも「社会」とは何なのか？我々は「社会」の中で生活をしている。「社会」について学ぶということは、今生きている世界について知ることである。故に、「社会科」を勉強しなくてはならないのだ、と生徒に説明したとしよう。おそらく生徒は私の説明に納得しないであろう。何故なら生徒が日常、生活している「社会」はあまりにも狭いからだ。生徒が生活する日常を「社会」として捉えられなければ、「社会科」を学ぶ意義は理解できまい。

「社会」について考えるとき、生徒にとって、一番想像しやすいのは「勤労」だろう。私たちは労働をすることで「社会」に貢献している。「勤労は美德」という価値観は日本人特有のものである。過労死などが問題となり、以前よりも「勤労」への意識は変化したように見える。では、「勤労は美德」という価値観は時代遅れになったのだろうか？否、「勤労」を美德とする価値観は未だに根強く残っている。「働かざる者、食うべからず」ということわざは誰もが一度は聞いたことがあるだろう。さて、このことわざを聞いたとき、生徒は「働かざる者」として、どのような人を思い浮かべるだろう？おそらく多くは定職に就かない、或いは働きたくても働けない人を想像するのではないだろうか？しかし、このことわざにおける「働かざる者」は貴族など身分の高い者を指している。日本人は知らず知らずのうちに「勤労は美德」という価値観が植え付けられ、「働かざる

者」を嫌い、「働かざる者」への社会的援助に抵抗を覚えているのだ。実際のところ、我々は「働かざる者」にこそ、いっぱい食べさせなければならないのだ。

「勤労」以外にも「社会」を身近に感じられる例はこの本に多く出てくる。「社会」を身近に感じることで良い「社会」にするためにはどうすればよいか、という次のステップへ進むことができる。「社会科は何のために勉強するの？」この本を読めばこの問いに上手く答えることができる…かもしれない。

(いとう ともや 文学部2年)

未知という名の宝物

大滝 あずほ

『弱いつながり』

東浩紀
幻冬舎 2014

貴方は、旅で常識が塗り替えられた経験があるだろうか。

私は20歳の冬、初めて一人旅にでた。宿泊するゲストハウスの予約だけ取り、日本円で5万円ほど握りしめて2週間、韓国へ渡った。ノープランだった。初めての海外一人旅から学んだことは、キムチの美味しさでも朝鮮語でも無く、型にはまらぬ絆の存在である。

「人との出会いを大事にせよ」と言えば、そんな事知ってるよ、という人もいるだろう。しかし、ここでいう「人」というのは、親や恋人、親しい友を指しているのでは無い。本書の表題である「弱いつながり」のことだ。

旅の10日目、私は倒れた。40度の熱。インフルエンザだったらしい。更に運が悪いことに、連休で、近くの病院全てが数日間も閉館されているとのこと。正直、死ぬと思った。

しかし、翌日、ゲストハウスの住人たちに私は救われた。片端から病院に電話を掛けて休日診療を行っている所を探し、片道1時間かけて診療可能な病

院まで私を連れていってくれた。看病もしてくれた。ゲストハウスの皆と親しくなっていたことが命綱となった。身寄りの無い地で、出会って間もない人々にこんなにも親切にしてもらったのは初めてで、心から感激した。日本はおもてなしの国と言われているが自分が思っている以上に海外の人も親切で温かいと学んだ。

本書では、このような弱いつながりが、人生において、いかに重要かを教示してくれる。批評家、小説家、そして哲学者でもある著者の東浩紀氏が読者に訴えかける「旅に出る」ことの意義。それはまるで、未知なる遭遇に怯えることで単色化した日常に、「新たな色を付け足すように」と背中を押してくれる温かい手のひらのようだった。

また、この体験談は私の旅の例に過ぎない。貴方が旅に出て偶然に出会うものや、感じる事。それらは貴方だけに与えられた唯一無二の財産だ。言葉にできない感動や、翻訳できない言葉がこの世には無数に存在する。だからこそ実際に身を偶然に晒すことで未知なる発見に遭遇するべきだ。旅とは、紛れもない未知の連鎖である。決して、大掛かりな旅に限らなくて良いと思う。降りたことの無い駅で降り、直感で入ったラーメン屋が絶品だっただけでも、昨日の貴方はもうどこにも居ないのだ。この本を読み終わる頃、きっと旅に出たくなるだろう。貴方にとって一生忘れられない冒険のきっかけとなりますように。

(おおたき あずほ 商学部3年)

未知の海で宝探しを

加藤 菜乃

『死ぬほど読書』
丹羽宇一郎
幻冬舎 2017

この本は「読書はしないとイケないものなのか」という新聞の投書をきっかけに書かれた。私がこの問いを受けたなら、読む読まないは自由だけど、読書をけなすのはやめてほしいと答えたい。著者、丹羽宇一郎氏は元ビジネスマンの視点で、本は沢山の情報を持つものであり、読むのが当然のものだと言わんばかりの口調で語る。私はそうは思わない。好きだから読むもの、趣味だ。

本書が強調するのは「考えながら読む」こと。自分で考えてはじめて、本から得た情報が知識になる

という。本は沢山の事を自動的に与えてくれる。受け身の読書をしていても得られるものは多い。しかし著者はそれだけでは許してくれないみたいだ。考えなければ身につかない、と知識を得ることに重きを置いている。読書をただ楽しむということを許してくれない考え方に少しの反発をしたくなるけれど、確かに大切なのは本に詰まっている情報の中に手を突っ込んで、必要なものを貪欲に掴むこと。与えられるものをただ受け取るより自分から探しに行けばもっと沢山のものが隠れている。楽しい。宝探しっぽい。

そしてもうひとつ。「傲慢になるな」丹羽氏は何度も繰り返す。自分は無知だと自覚すること。それには本が最適だと。著者が言うように、新しい知を得ることも大切だ。さらに私は、本は日々自分が見過ぎてしまっているものに意味をくれるものだと思っている。そのためには今自分は何も知らないという気持ちでいなければならない。無知の知を知らせてくれる何かに触れることで、新たなことを知ることができる。この心構えを持てるなら本でなくとも私はいいと思う。謙虚になって知識を探しにいけるなら、映画でも歌でもいい。人によって様々だ。もし本が嫌いでも著者の感覚に入れなかったとしても、そこで選択した自分の信頼するものを本に置き換えてこの本を読めば、傲慢にならないためのブレーキになってくれると思う。

ただ、私は仮定をせずとも本が好きだ。本に頼っている。私の目では平凡にしか見られない日々を気付かせていっばいにしてくれるのが本。著者、丹羽宇一郎氏の、他より本に信頼を置く物言いに共感できた時、改めて私は本が好きだと感じた。そして、謙虚という言葉の頭に置いて振り返ると、過去に読んだ本にも、膨大な量のまだ発見できていない知が眠っていると思った。傲慢になんてなれっこない。本は未知の海だと思う。

(かとう な の 社会学部2年)

『全体主義—私達に宿るもの』

金井 俊之

『全体主義の起原3：全体主義』
ハンナ・アーレント 大久保和郎他 訳 新版
みすず書房 2017

『全体主義の起原』、この本は第二次大戦後間もない1951年にハンナ・アーレントというドイツ系ユダ

ヤ人の政治哲学者が著した書物だ。彼女はナチ・ドイツの支配を分析していく中で、人間に何故あのような残虐な行いができたのかというショックと問題意識から、本書を執筆した。具体的な内容は、全体主義の分析とそれが生じた原因についてである。

では、何故全体主義の指導者はあれほどまでに人々を魅了し、なおかつ人々を自分たちの運動に組み込んでいったのか。また、何故当時の人々は残虐な行いを容認するに止まらず、自ら積極的に加担していったのか。

その根底にあるものはすなわち、私達の心の中にもあるこの世界に対する寂しさと怨恨であると、著者は結論づけている。私は最初、このあまりにもシンプルな答えに驚いた。それと同時に強く共感した。何故なら、世界や周囲から孤立し、寂しさや恨みを抱える人間は、何か強い存在や自分を受け入れてくれる存在を求めるからだ。当時の困憊しきったドイツやロシアの国民にとって、その存在が偶然にもヒトラーやスターリンだったのだ。

これは現代にも十分当てはまる。過剰な資本主義の下、人々は絶えず自己革新を迫られ、形式だけの個人主義によって、核家族化や無縁社会が進行する。一方で、組織や家族の中での同調主義の圧力に潰されていく。従って、民主主義や資本主義でさえ、全体主義化する可能性は十分にあり、日本とて例外ではないのだ。私はこういった全体主義の雰囲気や日々の生活の中で感じ取ることがある。それは、通学中の電車内のサラリーマンや学生の、先行きの見えない不安や様々な圧力によって疲弊した表情、あるいは一人で過ごす昼食時や就寝前に、自分の心の中にふと現れる孤独感や閉塞感などだ。このように、全体主義は縁遠いものではなく、私達一人一人の心の中にあるものなのだ。

以上のことから、私は本書を日本の人に、特に、この世界に対して並々ならぬ孤独や不安を抱えている若者に薦める。難解な書物ではあるが、本書は全体主義が生じる原因や背景を述べていると同時に、結論に全体主義への対抗手段も述べている。そして、その結論は驚くほどシンプルでありながら、私達の人生を豊かにしてくれる糸口でもあると、私は感じた。本書が、全体主義への理解を促進し、また読者の皆さんの心の行き詰まりや不安を解消するきっかけになれば、幸いである。

(かない としゆき 商学部2年)

バトンを持つ私たちはどこに行く

河内 冬馬

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』

加藤陽子
新潮社 2016

19世紀末から1945年まで、実に4度の戦争を日本は行った。なぜ、こんなにも多大な犠牲を伴う悲惨な戦争を選択したのか？ その理由や正当化された論理を探っていく。

著者は東大文学部教授であり、日本近現代史が専門の歴史学者である。著者は2007年に中高生17人へ5日間の講義を行った。講義と聞くと、先生が一方的に話し学生はおとなしく聞くイメージだが、この講義はそういう形式ではない。実際に近年の研究成果や史料が提示され、それを読み解きつつ、もし自分ならそのときどうするか？ 先生と学生の間で意見が交わされていく。その特別講義をまとめたものだ。歴史の本としては異例の28万部以上のベストセラーとなっており、2010年には小林秀雄賞を受賞した。

私は著者の次の言葉が心に残った。「現在の社会状況の判断や未来を予想するとき、人は無意識に過去との対比を行っている。そこで思い起こされる過去の事例がどれだけ豊かに蓄積できているかが重要だ。そのことから日本で起きたことを多くの人に正確に知ってもらう必要がある。」私たちは、未来を確実に見通せない。未来において過去を振り返ったときにあのときの選択は正しかったと言える判断を現在ですること。これは非常に難しいが、大事なことだと私も強く共感した。過去と全く同じことは起きないが、良い選択をするためのヒントが歴史から得られる。歴史を学ぶ意義はそこにあるだろう。そのヒントが知りたい、考えたい全ての人にお勧めだ。

また、「歴史って、過去の出来事を暗記する科目でしょ？ 何が面白いの？」という人にも読んでほしい。中高生へ語る形式のため比較的分かりやすいが、中高生は名門校の歴史研究部が中心のメンバーのため一般的な中高生像とは離れている。したがって、明治～現代の歴史を知っている方が読みやすい。自信がない人は簡単に日本史を参照しつつ読んでいくと良いだろう。そうすると、歴史は暗記科目だという思い込みが覆される。そして、背景や理由を考察することである出来事が妥当なものか、その因果関係を探る歴史の面白さを十分に味わえること間違いなしだ。

私たちは先人からのバトンを受け継ぎ、広い視野と多角的な視点を持って生きていこう。恐れすぎることなく、勇気を持って。そして、どんなときもその選択が絶対に正しいと思込まないこと。間違えたときには、素直に認めること。決して忘れないように…

(かわうち とうま 博士課程前期課程(修士課程)
理工学研究科2年)

「書評のススメ！」優秀賞

不可解な現実に向き合え！

窪田 将大

『全体主義の起原1：反ユダヤ主義』

ハンナ・アーレント 大久保和郎他 訳 新版
みすず書房 2017

「ユダヤ人を絶滅させなければならない」なぜ、このような残酷な思想が受け入れられ、多くの一般市民が史上最大の悪事に加担したのだろうか。これを理解不能な悪魔の所業として糾弾するのではなく、現実の出来事として理解するべきだ。『全体主義の起原』は、1906年生まれのユダヤ系ドイツ人で、自ら当事者でもある哲学者ハンナ・アーレントがこの難題に挑戦した全3巻の大著である。1巻では、全体主義に収斂する重要な思想の一つである反ユダヤ主義を扱っている。

なぜ、国民国家が形成された20世紀ヨーロッパで反ユダヤ主義が受け入れられたのか。なぜ、ユダヤ人は非国民として扱われたのか。様々な背景から反ユダヤ主義について分析を行っている。その中の一つに、「ユダヤ人は世界征服を企てる秘密結社である」と主張した『シオン賢者の議定書』という偽造文書がある。ナチスはこの文書を引用して、反ユダヤ主義の宣伝をした。この文書が反ユダヤ主義の起原であるというわけではないが、ナチスが「偽造文書でも宣伝の役に立つと考えた」というのは興味深い問題の一つだ。

これを現代に当てはめて考えるとどうなるのだろうか。例えば、テレビなどで評論家が難しい問題を分かりやすく解説していたとする。あなたは評論家の言うことに疑問を持って裏を取るだろうか。あるいは、あなたはなぜこの書評を読んでいるのだろうか。キャッチコピーやカバーが気になって読んでくれた人も多いのではないかな。また、こういう場合はどうだろう。シンプルなキャッチコピーを用いて、

特定の人物や団体にとって都合の良いフェイクニュースが流布されていたとする。評論家が分かりやすい口調でそのニュースを肯定する解説をしているとする。あなたはそのニュースに疑問を持つことが出来るだろうか。多くの人は出来ないのではないかな。しかし、このような思考停止した人が多数派になった時、危険思想が受け入れられる条件の一つが整ってしまうのである。同じ過ちを繰り返さないためには、当時のヨーロッパで何があったのかを正確に理解し、どうすれば悪夢が現実にならなかったのか皆が考える必要がある。『全体主義の起原』は、そのためのヒントを我々に与えてくれる。内容が難解なため一筋縄では読めないかもしれないが、是非とも一度手にとって頂きたい。

(くぼた まさひろ 博士課程前期課程(修士課程)
理工学研究科2年)

心の内に広がる壮大な森

小林 隆人

『教養力：心を支え、背骨になる力』

齊藤孝
さくら舎 2014

父親に本を読めと常々言われていたおかげか、現在の私は読書をする習慣がついている。昔は口うるさいと思っていたが今となっては感謝している。自分一人だけの人生では経験できない多くのことを知る機会を与えてくれたのだから。

教養は自己を形成し支えとなってくれるものである。また、地域や時代などの文化ごとに共有すべき教養がある。明治大学で教授を務めながら教育学などを研究している著者の齊藤孝さんは、本書で教養をこう定義し、教養の身に着け方やもたらすメリットを説明している。著者は本書のほかに古典の名作を分かりやすく説明した本を数多く出版するなど、教養の魅力を発信し続けている人である。

本書は教養を身に着ける方法をいくつか提案しているが、読書することの重要性を特に強調している。読書することで先人たちの考えや知識など幅広い教養が得られ、様々な見方を持つことができるからだ。

ただ、読書さえすれば教養が身につくわけではない。単に知識を知っているだけでなく、自らの文章や話し言葉の中に引用できてこそ真の教養といえるのだ。表現することによって教養は自分のものにな

り、創造性にまでも影響を与えてくれる。

昨今、情報社会の影響で古典の名作などが気軽に閲覧できるようになり、かえって教養の価値は軽視されてしまっている。心の病を持つ人が増えている現代、人々に足りないのは心の支えとなってくれる教養ではないだろうか。苦境な状況にいる時こそ心に深く入り込む教養は、内面を豊かにして世界観を広げてくれる。斉藤孝さんは、そんな教養の良さをみんなに知ってもらいたいと思い本書を執筆したのだろう。

本書を読みまだまだ未知の世界があることを実感した私は、それまで全く関心のなかった美術に関する本を読み始めた。その本で有名な作品に関する背景知識などを学んだ結果、芸術品に対する見方が広がって美術という世界をもっと知りたいと思うようになった。

悩みを抱えていたり、平凡な日常に退屈している人はぜひ本書を手にとってほしい。心の支えや新しい世界が見つかり、より人生を豊かに生きるきっかけとなってくれるだろう。

(こばやし たかと 文学部3年)

思想開闢！ 新現代への問いかけ

白井 彪史

『井上達夫の法哲学入門：リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください』

井上達夫
毎日新聞出版 2015

私がこの本を読んで、この本に抱いた印象は「衝撃」の一言に尽きる。

この本が対談形式となっていたことが、表紙からは全く想像できなかったため驚いた。また、本自体の内容がこれまでに読んできた同様のテーマを扱った本とは一線を画した内容であったことも驚きであった。以前に読んだ「政治」を扱った本は、自分の選書力のなさもあると思うが、筆者のイデオロギーが前面に強く出すぎており、少し読みづらく敬遠される本であるように感じたからである。

さて肝心の内容であるが、昨今のリベラル＝革新派の衰退をはじめ、憲法解釈や哲学の話など多岐にわたる話題や視点を通しながら「リベラル」を問い直す内容となっている。ここで考えていきたいのは「リベラル」という言葉の意味である。辞書的な答えとしては個人の自由を重んじる考え方、自由主義、

ひいては革新派閥などを指す言葉ということとなるであろう。そしてこれは保守主義あつての革新であるといえる。しかし昨今のリベラル、リベラリストと言われている人たちを見ていると主義主張を通そうとするあまりに時に保守的とさえ思える行動をしている。これでは本末転倒といわざるを得ない。

また、この本においても一つ問われているのは、日本の民主主義のあり方である。民主主義、それは現在の日本の政治体制であり世界で主流の政治体制である。今の社会はかつてのリベラリストたちの努力の産物といえなくもないが、欠点も多い。そしてその欠点について今日におけるまで改善されていないものも多いように思う。日本の民主主義は今、世界的な右傾化に対する対応を迫られている。これらに我々はどう対処すべきかの答えも見えていない。しかし、我々は「考える輩」である。考え続けることで必ず正解にたどり着けるものと私は信じている。

そして、読書はその正解への糸口の一つを専門家の知識を一般人に理解できるような形にして我々に提供してくれている。これによって人は賢くなりもするし感動したりもする。人によっては救いであるかもしれない。本を読んで他者の知識と出会うこと、これこそが私が読書をする理由であり、この本を推す根本の理由でもある。まとめるとこの本は良作の部類に入り、かつ新たな視点と知識を与えてくれる一冊である。なので、ぜひこの本を手に取り、新たな知識の扉を開いてみてはいかがだろうか。

(しらい たけし 文学部2年)

言い返すにもコツがあんねんで！

田島 美紀

『世界は数字でできている』

野口悠紀雄
新潮社 2017

私がこの本を読もうと思った最大の理由は、【将来の夢をバカにされないため】でした。私の夢は、公認会計士です。そう言うといつも、ちょっとかじった程度の知識しか知らない友達や両親から「将来無くなる仕事10に入っとるやん」などと言われて悔しい思いをしていました。公認会計士の武器は数字を読むことです。しかし、その価値を知っている人は多くありません。当時の私には相手を説得する程の知識が無かったので、言いたいことをぐっと堪えるしかありませんでした。そんな自分が嫌でした。

だから相手に言い返したいと強く思い、私はこの本を読むことに決めました!

さて、本の中身についてですが、大きく3つの視点から【数字】を見ていきます。それが【歴史】【政治】【地理】です。ここで具体例を3つ、厳選して紹介します。1つ目の【歴史】では、第二次世界大戦中が取り上げられていました。実はその裏で繰り広げられた数字(暗号)の戦いがありました。2つ目の【政治】では、責任力について書かれてありました。数字を挙げる政治家ほど説得力があって支持率が高いんです!3つ目の【地理】では、見慣れた街を楽しく散歩するコツを教えてください。数字を使ってね!最終的に3つの視点を合わせて、筆者が1番言いたかったこと、それは【日本人は数字に強くなるべき!】ということです。日本は世界から「技術最強、ビジネス最弱」と皮肉を叩かれています。「本当のところビジネスをするには、数字が読めないとダメ。なのに日本の経営者は文系が多く、数字を読める人が少ない。だから、世界に遅れを取ってしまうんだ!」と筆者は訴えていました。そういった嘆きから出来上がったのが、この本でした。

その1文を見つけたとき、私の胸にかかっていたモヤがずっと消えました。私はずっと、この言葉が欲しかったんです!会計士は将来無くなる仕事ではなくて、そんな武器を持つ人間こそ必要だと、後押しして貰えた気がしました!

おかげで、今は会計士を目指す理由も確信を持って説明ができます。そして家族や友達からは理解を持った応援をしてもらっています。

さて、あなたも、いつも言われっぱなしの相手に【数字】で言い返してやりたくはありませんか?そんなあなたにオススメする1冊です!

(たじま みき 商学部1年)

「大学生」は自分で作る

田中 理香子

『大学生になるってどういうこと?』

植上一希、寺崎里水、藤野真
大月書店 2014

私は大学生活にやり残したことが多くあります。そんな学生が増えないように。いなくなるように。不安定化する若者の将来を大学での学びによって支援する。そんな著者の思いからこの本は生まれました。

入学試験に合格するだけでは「大学生」になったとは言えない。この言葉には驚きましたがすぐに納得しました。「大学生」になる資格を得ただけでこれから「大学生」になっていく。そのための第一歩として大学という世界のルール・慣習を知ること。自分はどんな「大学生」になりたくて何をすべきなのか。そのことを考えるにあたって自分はなぜ「大学生」になったのかを改めて考えてみる。そうして自分のなりたい「大学生」像を明白にしていくこと。この言葉たちが私の心に突き刺さりました。ああ私は自分のなりたい「大学生」像が見えていなかったのだな…と。

大学ではどのように学べば良いのか。次はその事について語られていました。大学では先生によって授業の仕方は全く違います。そのためただ受け身になるのではなく、自分自身で予習復習を行い、ノートを作り上げていくことが必要になります。そして、ここで著者は、「単位を落としてもかまわない。」そう力説しています。単位の取りやすい授業ではなく、自分に意味のある授業を選ぶことが大事であると。確かにその通りだと思います。ですが私は単位の取りやすい授業を受けることが悪いとは思いません。私自身単位の取りやすい授業も選んでいました。しかし、単位の取りやすい授業を受けたことによって自分が今まで出会ったことのない知識との遭遇がありました。自分が見たことも聞いたこともない授業を受けてみるのも心が躍るものですよ。

そして最後に、大学を卒業してからどのような「キャリア」を歩むのかを考える事が大切だとありました。企業に就職するのか公務員になるのか、大学院に進学するのか専門学校に行くのか、選択肢は様々です。また、非正規雇用で働くという手もあります。今は本当に多様な働き方があるのです。自分にとって何が一番大切なのかを考えてください。決められた人生なんてどこにもないのですから。

この本を通して私は大学生活をもっとああしていればよかったと正直後悔しました。もちろんこの本が正しいというわけではありません。ただ、今悩んでいる青年たちにほんの少しばかりでも力を与えてくれる。そんな一冊であることを願います…。

(たなか りかこ 文学部4年)

世界は哲学で満ちている

谷口 楓果

『いま世界の哲学者が考えていること』

岡本裕一朗

ダイヤモンド社 2016

私が本書を読んでいる時、ある友人は「哲学なんてよくやるなあ」と言ってきた。古臭くてしかも何の役に立つんだかわからないじゃないか、とのことだった。なんのことはない、友人は哲学がどんなものか知らなかったのだ。後に誤解は解けたが、彼女のように哲学は古い考えの研究をしているだけの学問だと思っている人は他にもいるんじゃないだろうか。そうではない。哲学はいつも新しい。「自分が生きている時代を捉えるために、哲学者は現在へと至る歴史を問い直し、そこからどのような未来が到来するかを展望するのです。(本書より抜粋)」哲学はいつだって「今」の問題を解決するために存在している。

では、哲学者が実際に考えている問題というのはどういうものか。代表的なものとしてITが人類にもたらす影響というものがある。私たちはラインで友達とやり取りし、学校や会社関係のやり取りをメールでおこない、ICカードで電車に乗って、調べものはグーグルに頼る。それぞれの行動は逐一管理されているにも関わらず、普段それを自覚している人は少ない。それがどういうことなのか、本当に受け入れてもいいものか考える必要があるのではないだろうか。考えると聞いて身構えないでほしい。「観光客は無責任にさまざまところに出かけます。好奇心に導かれ、生半可な知識を手に入れ、好き勝手なことを言っては去っていきます。哲学者はそのような観光客に似ています。哲学に専門知はありません。哲学はどのジャンルにも属しません。それは、さまざまな専門を持つ人々に対して、常識外の視点からぎょっとするような視点を一瞬なげかける、そのような不思議な営みです。(東浩紀『弱いつながり』より)」哲学に専門知はなくてもいい。常識に囚われず考えればいい。やり方は本書の哲学者たちが教えてくれる。

私たちが進歩に酔っている間にも世界は一つまた一つと問題を抱えていく。私は本書を読んでそれらと向き合うことを学んだ。先ほどあげた例の他にも人工知能は危険か、クローン人間は作っていいのか、資本主義はこれからも通用するのか、宗教はどうなるのか、地球環境はどうなるのか、などについても

哲学者たちは議論している。本書を読んで世界が抱えている問題に目を向け、哲学者達の考えに一度耳を傾けながら考えてみてほしい。哲学はこれから先、私たちが生きていく上で大事な道標になるだろう。

(たにぐち ふうか 文学部1年)

「書評のススメ！」大賞

夢とバッタを追いかけて

土居 りさ子

『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎

光文社 2017

私にとって「夢を語ること」は少し照れくさい。笑われたらどうしよう、もし叶わなかったらカッコ悪い、そんなふうに思っただけでなかなか口に出すことができないのだ。それに比べて著者は、「虫を愛し、虫に愛される昆虫学者になりたい」という夢を堂々と語る。

本書には、その夢を実現させるためにアフリカへ向かい、バッタの研究に取り組んだ日々が綴られている。

「夢を叶えるためにどんな苦勞が待ち受けているのか、想像もできなかった」。言葉の壁、文化の違い、容赦のない自然の力…アフリカでの研究は予想以上に厳しいものだったということが、著者の言葉から伝わってくる。しかしそれでも、彼が折れることはない。持ち前のポジティブさと溢れるユーモアで、立ち足る困難を次々と乗り越えていく。

たとえば、英語とフランス語を混ぜた独自の言語を生み出し、言葉が通じない仲間とコミュニケーションを取る。文化の違いはむしろ楽しんで、現地の生活に自然と溶け込んでいく。研究対象のバッタとなかなか遭遇できないという非常事態でさえ、他の生物を夢中になって研究し、自分の糧にする。

「夢の裏側に隠された真実を知ること、また一歩ファールに近づけた気がしていた」夢を追う者たちが必ず直面する、厳しい現実の数々。その「裏側」の部分を見逃して、夢を叶えることは絶対にできない。

私は著者のようにまっすぐ「夢の裏側」と向き合っているだろうか。嫌なことから逃げて、苦しいことを避けようとしていないだろうか。著者が憧れるファールも、私が憧れる人々も、いつだってキラキラしている。しかしその人たちもどこかで「夢の

裏側」と向き合って、闘ってきたのだ。

最後に著者はこうも言っている。「叶う、叶わないは置いといて、夢を持つと、喜びや楽しみが増えて、気分よく努力ができる」。夢を持つことに対して難しく考える必要はない、シンプルな感情でいい。本書はそう教えてくれる。そしてその夢は、語ることから始まるのだ。

(どい りさこ 社会学部3年)

全女子、王子様は待ちません!

長東 香蓮

『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』

西原理恵子
KADOKAWA 2017

「女の人があんまり働きすぎたら結婚できひんのちゃう?」就職の相談をしている最中、父から言われた言葉だ。それでも、就職活動をしながら、悶々と自分の今後の生き方に悩む日々。そんな悩みを抱える中で、パッと目に入ったのが本書であった。

私自身、学生という肩書がなくなる時期に差し掛かり、本書との出会いはこれから生きる道に覚悟を決めさせられたような、衝撃的な一冊との出会いとなった。

本書は、漫画「毎日かあさん」を描いた西原理恵子さんの著書である。漫画「毎日かあさん」では、主婦の日常生活などが漫画で描かれているのに対し、こちらは女の子からお母さんになるまでの自身の経験と、子育てを終えるまでに学んだ女の子の生き方のポイントが記されている。筆者が一人の母として語る内容だからこそ、読み終える頃には、自然と自分にも訴えかけられているような気分になるだろう。

「どんな時でも、次の一手は、自分で考えて、自分が選ぶ。王子様を待たないで。幸せは、自分で取りに行ってください。」

私は、この文を目にしたとき、次の一手という言葉から将棋の対局が思い浮かんだ。将棋の対局での一手がどう考えられているのか、ご存知だろうか。対局中、棋士らの一手は、何手か先のことよりも今の状態で使える戦略が何通りあるかという、横の考えを強く意識しているらしい。筆者は、女の子が夢見がちだからこそ、生き抜くための戦略を考えておかなければならないと述べるのには、この考えが当てはまる。

本を読む前の私自身は横の考えどころか、今の生

きる道さえこのままでいいのかと地に足もついでいない様だった。この本を通じて、反抗期だった時の幼い自分、これから社会で生きる自分、母親になった時の自分という視点を思い浮かべることができた。それは、自分が今まで成長できたことの確信にもなり、これから待ち受ける未来への楽しみにもなった。

今まで歩いてきた道をかむしゃらに生き抜いた筆者から、力を貰える一冊である。

(なつか かれん 経済学部3年)

もっと自由に、楽しく、経済学。

平田 大祐

『教養としての経済学：生き抜く力を培うために』

一橋大学経済学部
有斐閣 2013

経済学というと馴染みの無さそうなイメージがある。教養と言われると高尚な香りがする。なんてことを考えながらまえがきに目をやると、「経済学を通して世を見直すと、世の中で起きている出来事を改めて捉え直すことができる」とある。へーなるほど、と一服。だとすれば経済学は学問の最前線を切り拓く専攻分野であると同時に、人生をよりよく生き抜く「知恵」とも言えるのかもしれない。

本書は、一橋大学経済学部発のエッセイ集。身近な経済問題から大きな社会問題、経済学的なものの考え方や外国語の学習にまで話題は及ぶ。一節完結方式なので、興味のあるトピックを拾い読みできる。トピックも金融危機、増税、マクロ経済学、ミクロ経済学、英語、統計学と、ニュースでよく聞く言葉や、この本を開いた人の関心を引くものばかり。読者の興味に合わせて経済学の世界を覗き見できるのがこの本の何よりの魅力といえる。

しかし、私が最もオススメしたい点は、各節の末尾にある読書案内だ。例えば、マクロ経済学をテーマに扱った節なら、その節の執筆者が、経済成長がどのように国内外に影響を与えるかなどといった観点から関連書を挙げてくれている。この本を足がかりに、我々はより深く経済学の世界に切り込める。敷居は低く、だが知的好奇心はとことん刺激する。そんな著者らの心構え、言わば経済学と読者に対する愛と言うべきものが滲み出ている。

この本の一節にバングラデシュのグラミー銀行が行ったマイクロ・クレジットという貸付制度が紹

介される。貧困層向け金融の回収リスクを、グループ借入という仕組みを導入して見事に解消し、なおかつ借入者側の持続的経営にも寄与した事例だ。ここで私は本書の言う教養というものが腑に落ちた。逆境を乗り越えるために人々が行う知的な努力。これが教養というのだろう。ならば教養は、高尚というよりもむしろ、副題にもある通り、現代社会を生き抜くための武器なのかもしれない。

この本は最初から最後まで cover-to-cover で通読するもよし。好きな項目を拾い読みするもよし。読書案内でさらなる本に手を伸ばすもよし。読者の望む読み方で、好きなように、この本は楽しむことができる。そしてそれは、読者の自由に経済学の世界に赴けることを意味する。つまり好きに楽しんでいいのだ。この本も。経済学も。

(ひらた だいすけ 外国語学部4年)

どうかあなたが、幸せで。

福留 ちさと

『愛するということ』

エーリッヒ・フロム 鈴木晶 訳 新訳版
紀伊國屋書店 1991

愛って、日常に溶け込んだ結構デリケートな問いが潜んでいるかもしれない。愛はハートマークに表現されるように日常に溶け込む。いつか恋に落ちると憧れ、雑誌の愛されコーデで繕う。自然とひとは愛について考える時、「誰かに愛されること」に光を当てる。

が、著者フロムは「愛は技術」であるという。運の問題ではなく、技術ゆえに知力と努力で身につけることができると。受け身的ではなく、愛する方法のヒントを記す。と同時に真に愛することは簡単ではないとも述べる。

確かに大切な人がいても時にぎくしゃくしてしまう。例えば私事だが、サークル合宿の行程表作時の話である。熊本への計画を心友4人で3ヶ月取り組んだが、やる気を続かせるのは難しい。もちろん各々力を貸し合ったが、時折一人でもがいている気がして滞る現状に歯痒く、只管やばいの沼にはまる。ある時メンバーの一人が駆け寄り「大丈夫か」と尋ねる。しんどいと明かすと、知らなかったと応え、「もっと話してほしい」と告げた。

私もあなたも他人同士である。故に分かりきれないことは自然だ。が、あの時「助けてほしい」けれ

ど、互いに苦心しているから「迷惑かけたら」と、心が黄色信号を灯すのを見て見ぬ振りをした。そんな時、フロムは「自分自身を愛することと他人を愛することは、不可分の関係にある」と説く。好きな人達だからこそ素のまま、辛いと漏らせば己に優しくなれたかもしれない。一方で、友人は私の態度を感じてか、そっと向き合い愛をくれた。愛とはフロムのいう「自分自身の持つ能力や経験などを与え、能動的に相手の中に入って行く」行為である。本が描くように、愛を通じて相手と私の双方を知っていた。とはいえ今だから思えることだ。20歳の私はまだ上手く愛せなくて道半ばを彷徨う。

この本は普遍的にある愛の性質を分析し、私として生きる鍵を与えてくれる。感情的ではなく論理的に。50年以上前の作品にも関わらず、時には自身の経験と重ね合わせて共感し、見つめ直す中でどうすればいいか考えさせられる。自分の話だからこそ繊細で、意識しない問いを語りかけられる。今は即答できず、全ては理解できなくても、断片的なメッセージでさえいつか変化するはずだ。だからこそ読み返したくなるし、様々な人々が答えを紡いできた世界的ベストセラーである。タイトル『愛するということ』の主語は「私」だ。私らしく自分と他人を愛するためには？

(ふくどめ ちさと 文学部2年)

考動力 引き出す秘訣ここにあり

松石 なるみ

『なぜ日本の大学生は、世界でいちばん勉強しないのか?』

辻太一朗
東洋経済新報社 2013

タイトルに惹きつけられ、私はこの本を手にとった。

『なぜ日本の大学生は世界で一番勉強しないのか?』

このタイトルが目に入った瞬間、一番に疑問に思ったことは、本当に日本の大学生は海外の学生と比べて勉強しないのかということだった。そこから、まるで、空に舞う華吹雪のように、数多くの疑問が頭の中を駆け巡った。しかし、この本を読み終え、すべての疑問が解消した。なぜなら、考える力を育む授業を学生に提供することが大切であると理解できたからである。

本書の初読時、自然と大きくうなずき、素早くページをめくる自分がいることに気がついた。本書を

読み終えてから、なぜここまで共感したのかとふと疑問に思ったが、答えは単純だった。現在、私は考える力を引き出す授業よりも著者が述べる講義形式の授業を数多く受講しており、またそれらの授業に退屈していたからである。また、私は現在、ラーニングアシスタントというグループワークのファシリテーター活動をしていて、受講生のやる気を引き出すにはどうすればいいのかと常に考えていた。それゆえ、本書の内容に共感したのである。

本書では、日本の大学生の現状と将来の問題点を例に考える力の必要性和その能力を育むための授業の例が、数多く取り上げられている。そのため、考える力を引き出す授業を学生に提供したいと考えている大学教授や自分の中に潜む、まだ見ぬ自分と出会いたい大学生に是非読んでほしい一冊である。そして、この本を読み終えたあなたは、自分の中に眠る「考動力」の原石の存在に気づき、今すぐにでも原石を磨くための冒険に踏み出したくなっているはずだ。私は、この本を読んですぐに、原石を磨くための冒険に出発した。

自分の原石を一生ものの宝物とするその日まで、この本を手にとったあなたと、数々の冒険を潜り抜けてきた辻氏と、長旅を恐れることなく、旅を続けていきたい。

(まついし なるみ 文学部4年)

「書評のススメ！」優秀賞

無意味は、今ここに存在している

山田 結以

『断片的なものの社会学』

岸政彦
朝日出版社 2015

私たちは時間をもっている。それはまさに人生のことだ。時間が尽きるまで、私たちは物語に出会い続ける。その断片が集まって世界はできている。ぜひこれを頭に浮かべながら、著者の語りの中を巡ってほしい。

本書は「紀伊國屋じんぶん大賞2016」を受賞している。社会学者として、人々の唯一無二の語りを聞き取っている著者。彼が日々考えている、社会、人、物語、つながり。これらの在り方や、そこにただ存在している無意味な「何か」について表現されたものが本書だ。私は読後、自分が出会った物語を振り返り、似た「何か」を探したくなった。私たちも言

葉にしたいとどこかで思っていたことが、ここでは語られている。

著者は多くの物語を近くも遠くもない、程よい距離から見ている。そして社会や私たちに向けて、その断片をそっと置いている。こうしてページは進んでいく。

タイトルに、社会学という言葉がある。私が本書を選んだのは社会学を専攻しているからだ。しかし、ページをパラパラめくると無意味や孤独、断片といった教科書では見かけないような抽象的で独特な言葉がちりばめられており、より興味をもった。堅苦しい内容を想像する人もいるだろうが、それは違う。本書はどこにでも転がっている私たちの日常が舞台だ。そこから著者の考えがエッセイ風に語られているのだが、登場する人々から垣間見える人間らしさがとても愛らしい。かと思えば少しのホラーも感じる。温かさと奇妙さを同時に楽しむことができるのだ。まだまだ人生経験の少ない私には物語が時にフィクションにさえ感じたが、すべてがノンフィクションだ。私は夢中になって読んだ。

「手のひらに乗っていた小石はそれぞれかけがえない、世界にひとつしかないものだった。そしてそれが世界中の路上に無数に転がっている」。著者ならではの静かに印象に残る文章だ。本書のテーマは「つながり」。人と人のつながりは想像しやすい。では、人とモノ、動物、現象のつながりは何か。この問いの答えは、幼少期に奇妙な癖として小石を拾い、よく眺めていたという著者の語りに含まれている。また、小石の在り方は私たちにも当てはまる。私たちはかけがえない無意味な存在なのだ。そして、日常には「つながり」が溢れているからこそ、楽しくなる、助け合える。優しさや愛情が生まれる。これらを再確認できる場所が、ここにある。

(やまだ ゆい 社会学部1年)

図書館自己点検・評価について

2018年度

□ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（2018年度）…………… (1)
- 2 2018年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (17)
- 3 関西大学図書館自己点検・評価委員会規程…………… (18)

自己点検・評価関係資料

1 基礎データ（2018年度）

(1) 入館者に関する統計
a 過去5年間の館別・月別開館日数
b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数
c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数
d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）
e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）
(2) 図書資料の利用に関する統計
a 館別・月別図書利用者数および利用冊数
b 月別入庫検索者数（総合図書館）
c-1 グループ閲覧室の利用状況（総合図書館）
c-2 グループ閲覧室の利用目的（総合図書館）
c-3 ラーニング・コモンズの利用状況（総合図書館）
c-4 ラーニング・コモンズの利用目的（総合図書館）
d-1 Webによるサービスの利用状況
d-2 Web機能の使用状況
e 文献複写サービス
f 図書館間相互利用件数
g 参考業務（総合図書館）
h 利用指導
i 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル
j 過去5年間の文献・情報データベース検索回数
k リポジトリ登録数・アクセス数・ダウンロード数
l 閲覧・ダウンロード件数
m キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）
n 利用者用パソコン設置台数
(3) 蔵書に関する統計
① 収書状況
a 図書資料の所蔵数（2018年度末現在）
b 過去5年間の図書の入数
c 図書資料異動状況
d 雑誌・新聞受入種類数
② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）
③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）
④ 分類別冊数と分類別冊数の全体に占める割合
a 分類別冊数
b 分類別冊数の全体に占める割合
⑤ 図書費執行額5年間の推移
(4) その他関連統計等
① 過去5年間の図書館職員
② 学生の閲覧座席数（2019年4月1日現在）
③ 10年間の展示会テーマと会期
④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の館別・月別開館日数

館	月	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		総合図書館	2014年度	30 (5)	31 (7)	30 (5)	31 (5)	17 (0)	27 (3)	30 (4)	26 (5)	26 (4)	26 (4)	17 (0)	19 (0)
	2015年度	30 (4)	31 (8)	30 (4)	31 (5)	17 (0)	27 (3)	31 (4)	26 (4)	25 (5)	24 (5)	23 (0)	23 (0)	318 (42)	
	2016年度	30 (4)	31 (8)	29 (3)	31 (5)	16 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (5)	24 (4)	24 (5)	16 (0)	21 (0)	304 (41)	
	2017年度	30 (4)	31 (7)	30 (4)	31 (5)	17 (0)	26 (1)	31 (6)	26 (4)	25 (5)	26 (5)	16 (0)	22 (0)	311 (41)	
	2018年度	30 (5)	31 (7)	28 (4)	29 (5)	19 (0)	24 (1)	31 (5)	26 (4)	25 (4)	25 (4)	16 (0)	20 (0)	304 (39)	

高槻 キャンパス 図書館	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270
	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	23	24	17	20	26	24	21	21	22	21	267
ミュージズ 大学図書館	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270
	2016年度	26	23	26	26	10	16	26	22	20	20	22	22	259
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	23	24	17	20	26	24	21	21	22	21	267
堺キャンパス 図書館	2014年度	25	24	25	26	13	21	26	21	22	22	17	19	261
	2015年度	25	23	26	27	13	20	27	22	21	20	23	23	270
	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	24	24	17	20	26	24	21	21	22	21	268

注1 総合図書館の下段()は内数で、授業期間中の日曜・祝日開館日数を示す。高槻・ミュージズ・堺の各図書館は日曜・祝日は休館。

注2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日

注3 学園祭による臨時休館 11月1日～4日

注4 冬季一斉休業期間中の休館 12月26日～1月6日

注5 入学試験等による休館 2月1日～2月8日、3月3日～3月4日

注6 年度末休館 3月28日～3月31日

b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミュージズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法学部	入館者数	100,931	4	139	57
		平均入館回数	30.9	0.0	0.0	0.0
	文学部	入館者数	96,796	6	172	135
		平均入館回数	28.9	0.0	0.1	0.0
	経済学部	入館者数	87,790	3	78	34
		平均入館回数	26.9	0.0	0.0	0.0
	商学部	入館者数	68,836	1	52	36
		平均入館回数	21.7	0.0	0.0	0.0
	社会学部	入館者数	57,776	2	102	238
		平均入館回数	16.6	0.0	0.0	0.1
	政策創造学部	入館者数	40,803	0	44	19
		平均入館回数	25.4	0.0	0.0	0.0
	外国語学部	入館者数	10,695	1	6	4
		平均入館回数	14.6	0.0	0.0	0.0
	人間健康学部	入館者数	2,604	9	17	22,746
		平均入館回数	1.9	0.0	0.0	15.6
	総合情報学部	入館者数	1,100	24,688	737	46
		平均入館回数	0.5	11.1	0.3	0.0
	社会安全学部	入館者数	1,270	4	15,684	21
		平均入館回数	1.0	0.0	13.4	0.0
システム理工学部	入館者数	48,704	0	77	11	
	平均入館回数	22.1	0.0	0.0	0.0	
環境都市工学部	入館者数	27,378	3	10	33	
	平均入館回数	19.0	0.0	0.0	0.0	
化学生命工学部	入館者数	35,908	2	6	26	
	平均入館回数	23.7	0.0	0.0	0.0	
学部合計		入館者数	580,591	24,723	17,124	23,406
		平均入館回数	20.1	0.9	0.6	0.8
大学院学生		入館者数	35,145	1,137	305	341
		平均入館回数	19.9	0.6	0.2	0.2
専任教職員	大学教員	入館者数	5,769	308	391	202
		平均入館回数	7.8	0.4	0.5	0.3
	高中小幼教諭	入館者数	29	0	64	0
		平均入館回数	0.1	0.0	0.3	0.0
	事務職員	入館者数	1,535	131	66	15
		平均入館回数	3.2	0.3	0.1	0.0

上記を除く教職員	入館者数	9,948	287	371	285
校 友	入館者数	11,432	7	3,902	466
そ の 他	入館者数	19,490	411	5,185	218
合 計	入館者数	663,939	27,004	27,408	24,933

注1 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数（2018年5月1日現在）で除した1人当たりの数値である。

注2 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

月	総 合 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	58,426	4,806	2,132	1,025	2,155	68,544	2,777.8	313.0
5	61,469	4,057	1,710	1,261	1,908	70,405	2,837.0	331.1
6	63,024	4,044	1,840	1,095	2,048	72,051	2,943.6	351.0
7	109,944	4,262	1,705	1,206	1,891	119,008	4,760.2	952.6
8	7,414	1,297	876	652	782	11,021	580.1	—
9	19,230	2,141	1,148	818	1,339	24,676	1,063.0	227.0
10	57,067	3,675	1,969	1,181	2,524	66,416	2,493.5	317.0
11	56,662	3,264	1,651	1,116	2,114	64,807	2,874.7	391.0
12	47,524	2,745	1,455	876	1,669	54,269	2,516.5	355.8
1	84,953	2,760	1,361	885	1,476	91,435	4,116.1	1,249.3
2	7,348	969	681	549	651	10,198	637.4	—
3	7,530	1,125	753	768	933	11,109	555.5	—
合 計	580,591	35,145	17,281	11,432	19,490	663,939	2,735.8	543.2
月	高 槻 キ ャ ン パ ス 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	3,249	157	80	0	47	3,533	147.2	—
5	3,292	123	92	0	44	3,551	148.0	—
6	2,766	87	58	3	29	2,943	128.0	—
7	4,880	103	58	0	36	5,077	211.5	—
8	53	33	25	0	23	134	7.9	—
9	954	51	42	0	30	1,077	53.9	—
10	2,547	115	84	1	47	2,794	107.5	—
11	2,037	119	92	1	41	2,290	95.4	—
12	1,574	131	78	1	30	1,814	86.4	—
1	3,276	140	64	1	26	3,507	167.0	—
2	51	47	27	0	27	152	6.9	—
3	44	31	26	0	31	132	6.3	—
合 計	24,723	1,137	726	7	411	27,004	108.5	—
月	ミ ュ ー ズ 大 学 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	1,986	26	97	248	480	2,837	118.2	—
5	2,796	30	103	288	436	3,653	152.2	—
6	1,843	31	98	256	498	2,726	118.5	—
7	3,214	33	84	326	538	4,195	174.8	—
8	185	12	50	215	408	870	51.2	—
9	572	18	54	280	398	1,322	66.1	—
10	1,390	36	81	429	497	2,433	93.6	—
11	1,285	29	71	386	453	2,224	92.7	—
12	956	31	87	406	370	1,850	88.1	—
1	2,226	33	68	473	423	3,223	153.5	—
2	382	13	52	293	307	1,047	47.6	—
3	289	13	47	302	377	1,028	49.0	—
合 計	17,124	305	892	3,902	5,185	27,408	109.2	—

館・資格 月	堺キャンパス図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	2,345	27	39	32	18	2,461	102.5	-
5	3,042	20	49	43	14	3,168	132.0	-
6	2,372	31	46	43	20	2,512	104.7	-
7	4,162	50	62	60	34	4,368	182.0	-
8	226	25	17	32	6	306	18.0	-
9	790	20	31	17	6	864	43.2	-
10	2,528	42	52	35	32	2,689	103.4	-
11	2,334	49	38	60	28	2,509	104.5	-
12	1,989	25	52	38	14	2,118	100.9	-
1	3,210	22	49	44	25	3,350	159.5	-
2	197	15	38	26	8	284	12.9	-
3	211	15	29	36	13	304	14.5	-
合 計	23,406	341	502	466	218	24,933	106.2	-

注1 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）

区 分	時間帯	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	合 計	
春 学 期	授業期間	総入館者	12,692	27,906	17,549	42,534	23,863	41,540	15,904	30,464	15,846	10,342	6,191	3,222	1,067	249,120
		1日平均	158.7	348.8	219.4	531.7	298.3	519.3	198.8	380.8	198.1	129.3	77.4	40.3	13.3	3114.0
	試験期間	総入館者	4,113	5,875	5,834	9,050	7,084	10,158	5,603	6,778	4,733	3,623	2,874	1,715	398	67,838
		1日平均	293.8	419.6	416.7	646.4	506.0	725.6	400.2	484.1	338.1	258.8	205.3	122.5	28.4	4845.6
	休暇期間	総入館者	/	2,890	1,955	2,718	3,189	2,936	2,410	2,393	1,619	768	334	/	/	21,212
		1日平均	/	80.3	54.3	75.5	88.6	81.6	66.9	66.5	45.0	21.3	9.3	/	/	589.2
	小 計	総入館者	16,805	36,671	25,338	54,302	34,136	54,634	23,917	39,635	22,198	14,733	9,399	4,937	1,465	338,170
		1日平均	129.3	282.1	194.9	417.7	262.6	420.3	184.0	304.9	170.8	113.3	72.3	38.0	11.3	2601.3

秋 学 期	授業期間	総入館者	9,866	21,142	14,257	38,315	23,544	35,751	16,125	27,230	14,204	8,855	5,880	2,777	1,150	219,096
		1日平均	120.3	257.8	173.9	467.3	287.1	436.0	196.6	332.1	173.2	108.0	71.7	33.9	14.0	2671.9
	試験期間	総入館者	3,157	5,124	5,409	8,405	7,086	9,845	6,292	6,529	4,891	3,620	2,823	1,660	366	65,207
		1日平均	197.3	320.3	338.1	525.3	442.9	615.3	393.3	408.1	305.7	226.3	176.4	103.8	22.9	4075.4
	休暇期間	総入館者	/	2,143	1,740	2,714	3,214	2,957	2,638	2,848	1,726	927	400	/	/	21,307
		1日平均	/	56.4	45.8	71.4	84.6	77.8	69.4	74.9	45.4	24.4	10.5	/	/	560.7
	小 計	総入館者	13,023	28,409	21,406	49,434	33,844	48,553	25,055	36,607	20,821	13,402	9,103	4,437	1,516	305,610
		1日平均	95.8	208.9	157.4	363.5	248.9	357.0	184.2	269.2	153.1	98.5	66.9	32.6	11.1	2247.1

日祝開館	総入館者	/	2,686	2,031	2,528	3,726	3,419	2,759	2,015	995	/	/	/	/	20,159
	1日平均	/	67.2	50.8	63.2	93.2	85.5	69.0	50.4	24.9	/	/	/	/	504.0

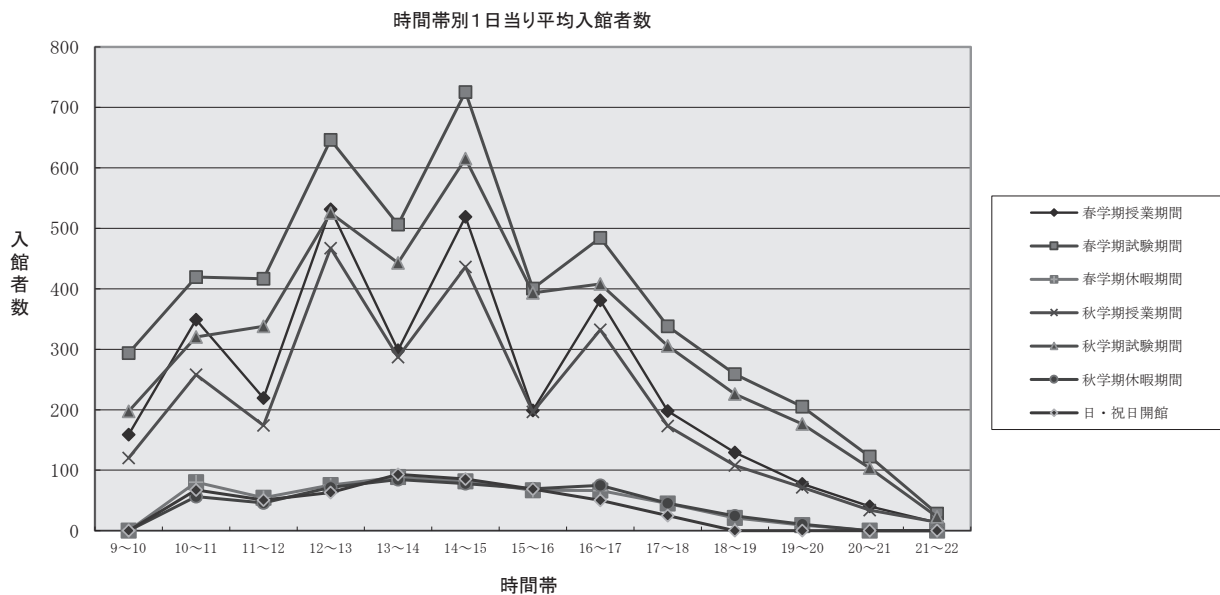
年度合計	総入館者	29,828	67,766	48,775	106,264	71,706	106,606	51,731	78,257	44,014	28,135	18,502	9,374	2,981	663,939
	1日平均	97.5	221.5	159.4	347.3	234.3	348.4	169.1	255.7	143.8	91.9	60.5	30.6	9.7	2169.7

注1 春学期 授業期間：4月5日～7月23日、試験期間：7月24日～8月1日、休暇期間：4月1日～4月4日、8月2日～9月20日
 秋学期 授業期間：9月21日～12月25日・1月7日～1月22日、試験期間：1月23日～1月31日、休暇期間：12月26日～1月6日・2月1日～3月31日

注2 授業期間とは、学年暦による授業期間（補講日含む）を示す。

注3 各期間の入館者数には、日祝開館に係る数値を含まない。

注4 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日（予備日含む）までを示す。



e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
2014年度	54	99	153	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2015年度	50	101	151	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2016年度	45	101	146	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2017年度	49	101	150	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2018年度	37	120	157	吹田市・池田市・八尾市の在住者

注1 2018年度の登録者数の内訳は、吹田市154名、池田市3名、八尾市0名

ミューズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
2014年度	27	64	91	高槻市在住者
2015年度	18	62	80	高槻市在住者
2016年度	31	56	87	高槻市在住者
2017年度	29	54	83	高槻市在住者
2018年度	23	51	74	高槻市在住者

堺キャンパス図書館	新規	再登録	合計	対象
2014年度	6	7	13	堺市在住者
2015年度	10	10	20	堺市在住者
2016年度	4	5	9	堺市在住者
2017年度	5	3	8	堺市在住者
2018年度	8	6	14	堺市在住者

(2) 図書資料の利用に関する統計

a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合	館内閲覧	学部学生	348	477	359	392	66	132	474	481	476	399	34	27	3,665
			504	704	576	630	140	272	868	856	847	653	47	35	6,132
		大学院学生	73	80	83	68	24	33	69	62	63	31	20	34	640
			138	135	150	144	36	63	131	121	120	51	35	75	1,199
		教職員	42	35	47	31	32	42	41	47	39	24	24	23	427
			73	63	70	52	80	76	62	68	67	37	43	36	727
	その他	146	166	123	154	132	133	168	152	144	97	82	84	1,581	
		482	464	356	430	409	408	438	392	381	237	180	219	4,396	
	計	609	758	612	645	254	340	752	742	722	551	160	168	6,313	
		1,197	1,366	1,152	1,256	665	819	1,499	1,437	1,415	978	305	365	12,454	
図書館	館外貸出	学部学生	7,181	10,788	10,212	12,284	1,784	3,805	10,705	10,173	10,167	10,646	1,006	734	89,485
			12,825	19,044	18,161	22,763	4,373	7,754	19,440	18,873	19,368	21,127	2,262	1,567	167,557
		大学院学生	2,313	2,206	2,039	2,028	791	1,189	1,952	1,669	1,498	1,343	515	547	18,090
			4,630	4,168	3,916	4,069	1,709	2,689	3,863	3,257	3,063	3,026	1,293	1,335	37,018
		教職員	1,098	1,073	957	885	577	765	1,157	929	785	851	462	489	10,028
			2,155	2,035	1,838	1,606	1,181	1,613	2,150	1,777	1,555	1,654	926	1,053	19,543
	その他	983	1,073	992	883	663	858	1,160	1,028	923	785	488	666	10,502	
		2,289	2,661	2,077	1,930	1,634	2,096	2,626	2,267	2,146	1,755	1,157	1,598	24,236	
	計	11,575	15,140	14,200	16,080	3,815	6,617	14,974	13,799	13,373	13,625	2,471	2,436	128,105	
		21,899	27,908	25,992	30,368	8,897	14,152	28,079	26,174	26,132	27,562	5,638	5,553	248,354	
	合計	12,184	15,898	14,812	16,725	4,069	6,957	15,726	14,541	14,095	14,176	2,631	2,604	134,418	
		23,096	29,274	27,144	31,624	9,562	14,971	29,578	27,611	27,547	28,540	5,943	5,918	260,808	
高槻キャンパス図書館	館内閲覧・館外貸出	学部学生	338	443	387	405	23	121	349	260	300	388	22	7	3,043
			576	786	620	715	64	221	602	485	537	692	55	12	5,365
		大学院学生	65	51	37	41	23	28	65	43	47	45	23	14	482
			165	110	82	125	43	72	134	93	91	83	61	36	1,095
		教職員	25	12	14	17	8	15	24	14	17	26	18	11	201
			60	21	25	29	10	28	46	31	24	37	44	39	394
	その他	13	27	34	17	29	23	31	31	38	11	6	17	277	
		31	41	50	22	46	34	53	57	92	25	7	34	492	
	計	441	533	472	480	83	187	469	348	402	470	69	49	4,003	
		832	958	777	891	163	355	835	666	744	837	167	121	7,346	
ミューズ大学図書館	館内閲覧・館外貸出	学部学生	169	273	291	242	48	113	224	190	176	373	56	29	2,184
			300	485	509	483	116	216	402	376	347	776	100	53	4,163
		大学院学生	10	13	16	14	2	9	15	8	9	10	4	5	115
			17	22	28	25	4	14	25	11	9	11	13	7	186
		教職員	23	37	25	19	18	19	31	23	31	22	21	13	282
			37	68	51	32	41	39	49	48	65	38	34	35	537
	その他	107	114	91	80	59	110	132	112	113	80	69	71	1,138	
		211	236	204	180	139	234	335	237	257	152	161	157	2,503	
	計	309	437	423	355	127	251	402	333	329	485	150	118	3,719	
		565	811	792	720	300	503	811	672	678	977	308	252	7,389	
堺キャンパス図書館	館内閲覧・館外貸出	学部学生	202	474	370	470	47	98	340	325	239	439	36	15	3,055
			319	784	591	905	99	187	566	571	445	877	93	24	5,461
		大学院学生	18	12	14	19	4	12	16	14	11	13	9	0	142
			39	21	25	35	11	31	29	26	23	52	22	0	314
		教職員	23	24	30	33	14	19	18	19	29	21	30	17	277
			65	78	56	70	26	51	34	37	73	37	92	80	699
	その他	42	38	36	40	31	22	47	58	40	34	23	35	446	
		73	67	64	75	57	42	92	128	79	54	43	67	841	
	計	285	548	450	562	96	151	421	416	319	507	98	67	3,920	
		496	950	736	1,085	193	311	721	762	620	1,020	250	171	7,315	

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

注2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行なったものを示す。

b 月別入庫検索者数（総合図書館）

利用区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	437	794	651	713	178	431	976	972	1042	678	112	82	7,066
	大学院学生	912	871	795	765	324	455	813	704	575	536	231	264	7,245	
	教職員	611	617	546	495	340	452	689	526	449	506	313	311	5,855	
	その他	50	64	64	45	46	38	51	51	70	49	31	47	606	
	計	2,010	2,346	2,056	2,018	888	1,376	2,529	2,253	2,136	1,769	687	704	20,772	

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。

注2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c-1 グループ閲覧室の利用状況（総合図書館）

区分	月別												合計	月平均 (日・祝日を除く)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用コマ数	31	43	36	19	16	8	34	52	31	17	13	6	306	25.5
利用者数	494	668	464	251	111	63	483	747	446	160	99	41	4,027	335.5

注1 授業時間90分をコマ単位としている。

c-2 グループ閲覧室の利用目的（総合図書館）

申込件数	コマ数	実人数
授業目的	151	2,564
研究会利用	128	1,078
資料の閲覧	21	349
読書会	4	20
その他（落書き消しや撮影）	3	24
計	307	4,035

c-3 ラーニング・コモンズの利用状況（総合図書館）

ワーキング・エリア利用状況

区分	月別												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用件数	334	518	516	633	137	182	563	606	465	473	65	66	4,558
利用者数	1,524	2,308	2,183	2,553	560	758	2,431	2,617	2,011	1,718	293	217	19,173
一日あたりの利用者数	63.5	96.2	91.0	106.4	31.1	33.0	93.5	119.0	95.8	81.8	18.3	11.4	73.2

ワークショップ・エリア利用状況

区分	月別												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用件数	34	50	18	4	5	0	15	10	5	4	0	0	145
利用者数	767	728	399	147	119	0	201	402	126	344	0	0	3,233

c-4 ラーニング・コモンズの利用目的（総合図書館）

ワーキングエリア

利用目的	件数
授業関連・グループ学習	2,663
自主学習	1,471
卒業論文卒論・修論準備	351
その他	9
計	4,494

ワークショップ・エリア

利用目的	件数
授業・ゼミ	28
その他	8

d-1 webによるサービスの利用状況

サービス種別	件数
蔵書検索	1,886,933 (0)
予約申込	13,305 (936)
相互利用申込	1,276
購入希望申込	1,773

注1 蔵書検索件数および予約申込件数については mobile opac による検索数も含み、内数で（ ）で示す。

注2 購入希望は Web 以外に書類提出によるものもある。

d-2 web 機能の使用状況

web 機能	件数
予約資料到着連絡	8,883
複写物到着連絡	877
借的本到着連絡	328
相互利用謝絶連絡	268
購入希望謝絶連絡	178
返却督促連絡（翌日）	26,426
返却督促連絡（2週間後）	4,807

e 文献複写サービス

区分		総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	小計
枚電子式複写数	モノクロ	603,160	19,611	4,341	2,005	629,117
	カラー	8,911	3,382	165	75	12,533
	マイクロ	2,809	0	0	0	2,809
	合計	614,880	22,993	4,506	2,080	644,459

注1 「モノクロ」はモノクロ複写とモノクロプリントアウトの合計枚数。

注2 「カラー」はカラー複写とカラープリントアウトの合計枚数。

f 図書館間相互利用件数

種別 月別	国内								国外							
	提供				依頼				提供				依頼			
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計
4月	29	54	173	256	7	30	120	157	0	0	1	1	0	0	3	3
5月	22	75	248	345	7	58	150	215	0	0	3	3	1	0	1	2
6月	29	86	293	408	8	45	148	201	0	0	0	0	0	0	7	7
7月	24	56	217	297	6	47	184	237	0	3	1	4	0	0	5	5
8月	26	45	175	246	8	27	84	119	0	1	2	3	0	0	16	16
9月	28	62	204	294	10	27	94	131	0	0	3	3	0	0	12	12
10月	43	60	271	374	14	37	186	237	0	0	3	3	3	0	3	6
11月	34	51	239	324	15	66	107	188	0	0	0	0	2	0	2	4
12月	25	46	185	256	3	26	102	131	0	0	0	0	1	0	4	5
1月	29	43	184	256	8	37	86	131	0	0	40	40	1	0	3	4
2月	34	28	98	160	13	9	49	71	0	0	0	0	0	0	2	2
3月	10	49	100	159	10	45	59	114	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	333	655	2,387	3,375	109	454	1,369	1,932	0	4	53	57	8	0	58	66

注1 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

g 参考業務（総合図書館）

(件数)

区分	学内利用者				学外利用者			合計
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他	
調査	所蔵	23	13	2	0	0	0	38
	事項	16	10	9	0	0	0	40
	その他	0	0	2	0	0	0	2
	計	39	23	13	0	0	0	80

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生、聴講生、留学生別科を含む。

h 利用指導

種 別	区分	総合図書館			高槻キャンパス図書館			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	入門ガイダンス「蔵書検索を学ぼう」	101	102	1,939	17	17	307	10	10	279	5	5	86
②	活用ガイダンス「文献のさがし方を学ぼう」	110	137	1,690	12	12	170	15	15	339	9	9	94
③	上位年次生のための入庫ガイダンス	182	182	1,996	4	4	51	5	5	68	0	0	0

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラス数、人数は参加者延べ数である。

注2 ①②はクラス・ゼミ・研究室対象。

注3 ③は各図書館で実施した総合図書館地下書庫ガイダンスで、クラス単位と個人単位の総数。

i 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	59	RSC (Royal Society of Chemistry)	43
beck-online	226	Sage Premier	895
Cambridge Journals Online	398	OECD iLibrary	1,309
Elsevier ScienceDirect	2,284	SpringerLINK	1,587
Emerald Fulltext	120	Taylor & Francis	2,307
IEL (IEEE/IET Electronic Library)	506	Wiley Online Library	1,666
JSTOR	115	日経 BP 記事検索サービス	40
Oxford Journals	275	その他	3,615
		合 計	15,445

注1 2018年まで取り上げていたAPSについては、2018年12月末に契約解除したため、当統計の対象から外した。

j 過去5年間の文献・情報データベース検索回数

	種 別	2015年	2016年	2017年	2018年	備 考
1	AFP World Academic Archive *	11	86	258	138	2014年4月～
2	beck-online：プレミアム版（ドイツ法情報データベース）	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
3	Bibliography of British and Irish History *	26	14	8	13	2011年5月～
4	Business Archives Online	248	147	133	130	2013年4月～
5	Business Source Complete（ビジネス関連データベース）	8,466	7,568	7,046	7,177	2012年2月～
6	CiNii（NII論文情報ナビゲータ）	666,680	598,592	389,476	195,933	2005年4月～
7	DBpia	2,077	1,333	1,595	1,723	2014年4月～
8	eBook Collection（EBSCOhost）	14,064	7,642	10,503	8,825	2011年7月～
9	EconLit with Full Text	6,777	1,495	5,587	5,481	2012年2月～
10	The Economist Historical Archive 1843-2012	127	88	72	169	2012年7月～
11	Eighteenth Century Collections Online	326	79	556	114	2013年4月～
12	英国王立国際問題研究所（チャタム・ハウス）オンライン・アーカイブ	48	24	15	88	2014年4月～
13	Entertainment Industry Magazine Archive	—	—	—	—	2013年4月～
14	eol（有価証券報告書を含む企業情報データベース）	79,064	38,149	128,417	118,368	2006年4月～
15	Factiva.com	2,592	3,053	3,744	4,309	2013年4月～
16	Financial Times Historical Archive 1888-2009	25(1～3月)	—	—	—	2012年4月～ 2015年3月
17	Frantext	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2007年10月～
18	Global Trade Atlas *	60	34	23	20	2014年4月～
19	ゴールドスマス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース(MOMW I) & MOMW II★	3	9	5	13	2013年4月～
20	新・判例解説 Watch *	209	230	242	191	2011年7月～
21	HeinOnline	567	740	1,226	1,344	2012年～
22	法律文献総合 Index *	260	344	267	233	2011年7月～
23	法律判例文献情報（法関連文献索引）*	2,699	2,721	2,511	2,306	2006年4月～
24	18th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	0	0	0	0	2013年4月～
25	19th & 20th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	6	2	44	31	2009年～
26	医中誌 Web	5,609	3,566	6,671	4,223	2014年4月～
27	ICPSR ★	337	108	225	71	2005年4月～
28	The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003	89	93	103	219	2013年4月～
29	Integrum ★	284	194	122	138	2013年4月～
30	International Index to Music Periodicals	—	—	—	—	2013年4月～
31	International Medieval Bibliography Online *	20	14	17	13	2011年5月～
32	ジャパンナレッジ Lib（百科事典データベース）	34,114	39,082	43,839	44,541	2005年4月～
33	The Japan Times Archives	98(4月～)	69	268	561	2015年4月～
34	JCIF（国際金融情報センターオンラインサービス）	187	17	10	110	2006年4月～
35	JDream III（科学技術情報索引）	32,691	20,805	14,864(4月～)	15,096	
36	Journal Citation Reports	903	526	965	657	2010年4月～
37	JURIS Online ★（独国法律情報データベース）	2,924	2,028	1,572	1,368	2004年10月～
38	化学書資料館（国内で発行された化学書データベース）	3,626	3,228	1,716	1,897	2007年4月～
39	官報情報データベース ▲	19	6	7	3	2006年4月～
40	聞蔵II ビジュアル（朝日新聞記事索引）*	20,858	40,380	60,518	25,143	2006年10月～
41	KISS △	5,666	3,850	2,561	2,618	2008年8月～
42	公的判例集データベース*	371	387	469	349	2011年7月～
43	Kuselit Online	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2014年4月～
44	教保文庫スカラー	800	328	546	744	2014年4月～
45	LearnTechLib	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2015年～
46	LEX/DB インターネット（法律情報データベース）*	5,548	5,483	5,135	5,156	2003年4月～

	種 別	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	備 考
47	Lexis Advance (法情報索引)	4,047	2,198	1,562	773	
48	Magazine Plus (和雑誌記事索引)	14,875	21,913	41,859	18,968	
49	毎索 (毎日新聞記事索引)	9,187	6,321	6,423	6,261	2005 年 4 月～
50	MathSciNet (数学文献データベース)	10,363	10,152	11,017	7,751	2006 年 11 月～
51	MLA International Bibliography *	—	—	—	—	2011 年 4 月～
52	Mpac (マーケティング情報サービス)	1,101	1,081	557	566	2007 年 10 月～
53	日本文学 web 図書館 *	158	236	495	325	2013 年 4 月～
54	日経 NEEDS-Financial QUEST (社会・地域統計) ★	106,807	4,920	17,903	33,457	2002 年 7 月～
55	日経テレコン (日本経済新聞ビジネス情報データベース) ☆	1,555,369	1,512,327	1,545,578	1,814,449	2003 年 10 月～
56	19th Century U.S. Newspapers	340	138	122	431	2014 年 4 月～
57	Oxford English Dictionary	650	1,089	791	469	2014 年 4 月～
58	ProQuest Basic Search (専門分野型データベース)	3,397	2,142	2,218	2,697	2003 年 11 月～
59	ProQuest Congressional	91	32	33	10	
60	PsycARTICLES (心理学文献データベース)	2,024(4~12月)	3,872	3,622	6,349	2014 年 4 月～
61	PsycINFO (心理学雑誌記事・文献索引)	2,066(4~12月)	3,835	3,634	6,284	2006 年 4 月～
62	Regional Business News (地域ビジネス関連データベース)	5,186	863	4,790	4,363	2012 年 2 月～
63	The Sankei Archives (産経新聞ニュース検索サービス) *	1,991	2,519	2,527	2,481	2014 年 4 月～
64	SciFinder (化学情報データベース)	63,334	61,294	57,728	46,100	
65	Super 法令 web *	145	95	76	93	2011 年 7 月～
66	The Times Digital Archive 1785-1985	179	201	203	739	2012 年 7 月～
67	Translation Studies Bibliography *	18	6	1	28	2012 年 4 月～
68	Web of Science (引用・被引用論文索引)	31,653	34,908	34,129	43,353	2001 年 8 月～
69	Web OYA-bunko (大宅壮一文庫雑誌記事索引) *	297	225	311	256	2005 年 11 月～
70	Westlaw Next (法情報索引)	2,350	3,055	6,912	4,257	
71	World Bank e-Library	25	13	16	14	2014 年 4 月～
72	山一証券株式会社第一期・オンライン版 △	32	9	33	19	2014 年 4 月～
73	ヨミダス歴史館 (読売新聞記事索引)	10,072	11,456	11,312	10,527	2005 年 4 月～

注1 統計算出方法について

- (1) 各統計は、1月～12月までの検索回数の合計である。統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用しているため、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。
- (2) *はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページビュー数、▲は利用申込者数を示す。
- (3) 表中の「—」は、当該年度が利用(統計計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であることを、または別の統計に含まれていることを示す。

注2 各データベースに係る注記

- 4 Business Archives Online は、2014 年 4 月から有価証券報告書を含む。
- 6 CiNii は、CiNii Articles のみの利用統計から、2014 年の統計から CiNii 全体の利用統計に計数の方法が変更になった。NII-ELS の終了に伴い、2017 年 4 月からサイト上での論文提供サービスを終了した。
- 13 2014 年以降の統計は 58 に含まれる。
- 19 ゴールドスマス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース (MOMW I) は、2014 年 4 月以降、The Making of the Modern World, Part II :1851-1914 (MOMW II) を含む。2015 年からプラットフォームの変更に伴い検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。
- 21 HeinOnline は、World Constitutions Illustrated, U.S.Federal Agency Documents, Decisions, and Appeals, History of International Law を含む。
- 24 25 18th Century, 19 & 20th Century House of Commons Parliamentary Papers (HCPP) は、2014 年 4 月からプラットフォームの変更に伴い検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。
- 30 2014 年以降の統計は 58 に含まれる。
- 32 ジャパンナレッジは、2015 年から計数方式を Counter 形式に改め、ログイン回数から検索回数に計数の方法が変更になった。
- 35 JDream III (科学技術情報索引) の 2017 年統計の数値は、4 月-12 月の数値 14,864 + 1-3 月の数値 2,628 を足した 17,492 が正しいものとなる。
- 36 Journal Citation Reports は、2014 年 4 月からのプラットフォーム変更 (JCR から Incites へ) に伴い 4 月から 12 月の利用統計が計数されていない。なお、2015 年以降は Visit 数を計数している。
- 37 JURIS Online の統計値には、文書取件数 (文書 < 全文・要約・抄録等 > の閲覧件数) を計上している。
- 47 2017 年 4 月に Lexis.com は、Lexis Advance にバージョンアップした。
- 49 毎索は、2014 年から 2015 年 3 月までの計数方法は、検索ログ件数である。
- 51 2014 年以降の統計は 58 に含まれる。
- 52 Mpac は、2014 年から計数の方法がアクセス総数から検索回数に変更になった。
- 58 ProQuest Basic Search には、ERIC, LISA, LLBA, Worldwide Political Science Abstracts, Sociological Abstracts, PILOTS, Social Services Abstracts, Entertainment Industry Magazine Archive, International Index to Music Periodicals (IIMP), MLA International Bibliography, PsycARTICLES (2015 年 3 月まで)、2006 年 4 月からは PsycINFO (2015 年 3 月まで) が含まれる。また、2012 年 10 月からは ProQuest Dissertations & Theses Full Text (2014 年 4 月から ProQuest Dissertations & Theses Global に変更)、2014 年 4 月からは ProQuest Historical Annual Reports が含まれる。2014 年 4 月から計数の方法が変更になり、統計値には ProQuest が提供する ProQuest Congressional も含まれるようになった。
- 60・61 PsycARTICLES, PsycINFO は提供プラットフォームの変更により 2015 年 4 月から計数できるようになった。

k リポジトリ登録件数・アクセス数・ダウンロード数

リポジトリ登録件数 (累計)	98
同上 アクセス数 (累積)	56,022
同上 ダウンロード数 (累積)	41,235

l 閲覧・ダウンロード件数

電子化資料	画像数	刊行物	掲載状態	
源氏物語他 231 点	35179	図書館フォーラム 23 号	全文掲載	74 ページ

m キャンパス間相互利用件数(予約取寄せ)

		提供冊数(受付館)				
		総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
受入冊数 (依頼館)	総合図書館		1,512	899	1,634	4,045
	高槻キャンパス図書館	1,008		61	97	1,166
	ミューズ大学図書館	1,574	232		162	1,968
	堺キャンパス図書館	616	112	43		771
	合計	3,198	1,856	1,003	1,893	7,950

n 利用者用パソコン設置台数

総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
127	9	10	16	162

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

a 図書資料の所蔵数(2018年度末現在)

区 分	種 別	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類数		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(点数)	電子ブック(点数)
		図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書	外国書			
総合図書館		2,182,077	235,279	15,130 (2,065)	8,802 (817)	123,475	15,445	8,598
高槻キャンパス図書館		56,124	56,124	271 (156)	245 (57)	481	—	—
ミューズ大学図書館		46,560	46,560	409 (145)	72 (18)	221	—	—
堺キャンパス図書館		49,249	49,249	180 (149)	44 (22)	156	—	—
法学部資料室		31,891	31,891	1,006 (296)	49 (10)	82	3	0
経商資料室		32,583	32,583	845 (300)	228 (28)	4	1	0
社会学部資料室		35,365	35,365	1,207 (253)	49 (10)	285	0	0
視聴覚資料関係(LL資料室、メディアライブラリー1・2)		0	0	0	0	4,232	0	0
法科大学院ロー・ライブラリー		15,037	15,037	129 (75)	1 (0)	0	0	0
会計専門職大学院図書資料室		1,273	1,273	10 (10)	0 (0)	0	0	0
東西学術研究所		18,568	0	634 (227)	144 (30)	119	0	0
経済・政治研究所		19,894	0	83 (83)	1 (1)	0	1	1
法学研究所		15,778	0	96 (96)	0 (0)	438	0	0
人権問題研究室		25,836	25,147	76 (76)	2 (2)	94	0	0
計		2,530,271	528,544	20,076 (3,931)	9,637 (995)	129,587	15,450	8,599

注1 図書の冊数には、製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

注2 視聴覚資料は、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよびCD-ROM・DVD-ROM等を含み、図書の冊数の内数である。

注3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段()は内数で、継続して受け入れている種類数。

注4 電子ジャーナルの種類数は延べ数で、総合図書館で集中管理をしている。

b 過去5年間の図書の受入数 (単位：冊)

館	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総合図書館		23,407	17,329	21,730	25,369	20,821
高槻キャンパス図書館		983	1,395	1,501	1,672	1,579
ミューズ大学図書館		916	1,094	1,450	1,588	1,417
堺キャンパス図書館		1,208	1,484	1,896	1,998	1,896
計		26,514	21,302	26,577	30,627	25,713

注1 製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

c 図書資料異動状況 (単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	16,170	3,708	251	0	132	20,261
	受贈	866	57	0	0	50	973
	その他	2,494	1,414	97	0	474	4,479
	合計	19,530	5,179	348	0	656	25,713
	除籍抹消	3,172	95	0	0	0	3,267
	増減計	16,358	5,084	348	0	656	22,446
	期末在高	1,381,589	824,549	95,988	24,149	7,735	2,334,010

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 「種別」の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

d 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,527	843	2,370
	受贈	929	47	976
	その他	59	24	83
	合計	2,515	914	3,429

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

② 分類別所蔵図書冊数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	15,006	11,777	26,783
010	図書館	6,699	4,629	11,328
020	図書・書誌学	17,067	14,582	31,649
030	百科事典	3,541	3,982	7,523
040	一般論文・講演集	17,966	1,556	19,522
050	逐次刊行物・年鑑	22,992	7,929	30,921
060	学会・団体・調査機関	1,323	466	1,789
070	ジャーナリズム・新聞	17,015	7,440	24,455
080	叢書・全集	56,396	18,547	74,943
090	郷土資料	1,247	2,337	3,584
	総記・計	159,252	73,245	232,497
100	哲 学	4,118	5,372	9,490
110	哲学各論	2,494	3,871	6,365
120	東洋思想	18,314	739	19,053
130	西洋哲学	7,750	19,870	27,620
140	心理学	13,473	15,194	28,667
150	倫理学	3,827	1,473	5,300
160	宗 教	5,819	4,177	9,996
170	神 道	2,610	56	2,666
180	仏 教	15,596	1,895	17,491
190	キリスト教	6,464	8,864	15,328
	哲学・計	80,465	61,511	141,976
200	歴 史	6,550	10,539	17,089
210	日本史	52,281	1,215	53,496
220	アジア史・東洋史	32,139	5,122	37,261
230	ヨーロッパ史・西洋史	5,282	17,486	22,768
240	アフリカ史	329	1,568	1,897
250	北アメリカ史	739	2,767	3,506
260	南アメリカ史	96	91	187
270	オセアニア史	95	163	258
280	伝 記	22,020	7,089	29,109
290	地理・地誌・紀行	30,115	6,702	36,817
	歴史・計	149,646	52,742	202,388
300	社会科学	13,227	8,129	21,356
310	政 治	41,371	48,781	90,152
320	法 律	62,378	88,526	150,904
330	経 済	89,670	94,457	184,127
340	財 政	7,929	6,798	14,727
350	統 計	9,290	5,769	15,059
360	社 会	62,819	52,596	115,415
370	教 育	48,183	13,683	61,866
380	風俗習慣・民俗学	17,445	4,393	21,838
390	国防・軍事	3,844	1,428	5,272
	社会科学・計	356,156	324,560	680,716
400	自然科学	7,594	8,704	16,298
410	数 学	10,042	14,887	24,929
420	物理学	6,006	15,482	21,488
430	化 学	6,417	13,085	19,502
440	天文学・宇宙科学	2,350	1,030	3,380
450	地球科学・地学・地質学	7,256	4,264	11,520
460	生物科学・一般生物学	6,419	8,480	14,899
470	植物学	1,258	225	1,483
480	動物学	2,295	488	2,783
490	医学・薬学	24,800	10,522	35,322
	自然科学・計	74,437	77,167	151,604
500	技術・工学・工業	15,742	21,813	37,555
510	建設工学・土木工学	18,838	12,128	30,966
520	建築学	15,807	6,429	22,236
530	機械工学・原子力工学	10,475	8,859	19,334
540	電気工学・電子工学	23,488	17,992	41,480
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,508	380	1,888
560	金属工学・鉱山工学	5,805	6,224	12,029
570	化学工業	7,115	6,903	14,018
580	製造工業	4,599	1,546	6,145
590	家政学・生活科学	1,848	418	2,266
	技術・計	105,225	82,692	187,917

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	5,360	403	5,763
610	農 業	12,447	4,324	16,771
620	園芸・造園	1,242	221	1,463
630	蚕糸業	228	1	229
640	畜産業・獣医学	968	149	1,117
650	林 業	1,407	238	1,645
660	水産業	1,756	278	2,034
670	商 業	17,297	14,573	31,870
680	運輸・交通	9,477	7,082	16,559
690	通信事業	3,493	2,399	5,892
	産業・計	53,675	29,668	83,343
700	芸 術	14,040	6,587	20,627
710	彫 刻	999	300	1,299
720	絵画・書道	17,860	3,977	21,837
730	版 画	835	372	1,207
740	写真・印刷	2,054	508	2,562
750	工 芸	4,273	1,372	5,645
760	音楽・舞踏	6,685	1,633	8,318
770	演劇・映画	14,754	3,611	18,365
780	スポーツ・体育	9,979	3,023	13,002
790	諸芸・娯楽	1,775	237	2,012
	芸術・計	73,254	21,620	94,874
800	言 語	4,875	15,217	20,092
810	日本語	11,180	298	11,478
820	中国語・東洋の諸言語	9,589	1,109	10,698
830	英 語	6,872	8,923	15,795
840	ドイツ語	1,107	4,455	5,562
850	フランス語	1,082	3,131	4,213
860	スペイン語	492	557	1,049
870	イタリア語	140	406	546
880	ロシア語	399	1,349	1,748
890	その他の諸言語	412	944	1,356
	言語・計	36,148	36,389	72,537
900	文 学	12,497	10,907	23,404
910	日本文学	100,157	1,623	101,780
920	中国文学・東洋文学	29,487	802	30,289
930	英米文学	8,652	25,234	33,886
940	ドイツ文学	3,366	13,513	16,879
950	フランス文学	4,617	12,640	17,257
960	スペイン文学	1,589	10,825	12,414
970	イタリア文学	497	568	1,065
980	ロシア文学	1,889	3,190	5,079
990	その他の諸文学	511	1,454	1,965
	文学・計	163,262	80,756	244,018
	合 計	1,251,520	840,350	2,091,870
	その他			242,140
	図書館蔵書数			2,334,010

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。
 注2 2014年度にミュース大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。
 注3 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

③ 分類別所蔵雑誌種類数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,767	975	5,742
100	哲 学	486	525	1,011
200	歴 史	843	337	1,180
300	社 会 学	4,019	3,532	7,551
400	自 然 学	744	934	1,678
500	技 術	1,719	1,615	3,334
600	産 業	681	359	1,040
700	芸 術	821	169	990
800	言 語	262	267	529
900	文 学	1,636	449	2,085
	その他	12	1	13
	合計	15,990	9,163	25,153

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。
 注2 2014年度にミュース大学図書館および堺キャンパス図書館の資料の移管を受けた。
 注3 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 分類別冊数と分類別冊数の全体に占める割合

a 分類別冊数

年度 分類	館名	2018年度			
		総合図書館	高槻キャンパス 図書館	ミューズ大学 図書館	堺キャンパス 図書館
000 総記		217,406	10,458	3,247	1,386
100 哲学		131,733	3,234	2,274	4,735
200 歴史・地理		195,273	2,263	2,104	2,748
300 社会科学		629,456	17,804	15,987	17,469
400 自然科学他		132,773	4,923	7,884	6,024
500 技術・工学他		174,100	5,415	7,440	962
600 産業		77,998	2,328	2,370	647
700 芸術・スポーツ他		83,786	2,486	975	7,627
800 言語		64,595	4,604	1,733	1,605
900 文学		232,817	2,609	2,546	6,046
その他		242,140	0	0	0
合 計		2,182,077	56,124	46,560	49,249

注1 総合図書館の蔵書のうち「その他」は、貴重書や特別コレクション・書状など十進分類法になじまないもの。

注2 2017年度から「その他」は、4キャンパス図書館ごとに算出することとした。

b 分類別冊数の全体に占める割合

年度 分類	館名	2018年度			
		総合図書館	高槻キャンパス 図書館	ミューズ大学 図書館	堺キャンパス 図書館
000 総記		10%	18%	7%	3%
100 哲学		6%	6%	5%	10%
200 歴史・地理		9%	4%	5%	6%
300 社会科学		29%	32%	34%	35%
400 自然科学他		6%	9%	17%	12%
500 技術・工学他		8%	10%	16%	2%
600 産業		3%	4%	5%	1%
700 芸術・スポーツ他		4%	4%	2%	16%
800 言語		3%	8%	4%	3%
900 文学		11%	5%	5%	12%
その他		11%	0%	0%	0%
合 計		100%	100%	100%	100%

⑤ 図書費執行額5年間の推移

(単位：円)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
図 書	和	88,473,660	61,906,256	90,865,375	86,294,134	84,288,861
	洋	96,161,156	55,116,434	81,407,431	79,951,962	71,552,046
雑 誌	和	31,078,072	36,374,648	30,454,818	29,520,048	27,814,437
	洋	295,852,763	334,227,263	365,449,403	330,814,027	352,739,975
電子媒体		2,891,499	5,259,807	629,996	3,420,619	2,233,737
マイクロ資料	和	3,696,387	1,213,056	629,856	1,797,336	7,318,080
	洋	491,326	0	833,902	373,554	0
その他の資料		24,023,571	43,495,542	14,256,315	18,258,932	27,649,781
外部データベース		103,340,427	103,823,214	93,344,220	93,257,202	90,371,348
合 計		646,008,861	641,416,220	677,871,316	643,687,814	663,968,265
製 本 費		8,114,010	5,610,075	8,853,744	7,602,663	6,959,015

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。

注3 「その他の資料」には、追録、AV資料を含む。

(4) その他関連統計等

① 過去5年間の図書館職員

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
専任職員 〔人数〕	21 (11)	21 (11)	21 (11)	19 (10)	18 (8)
定時職員 〔総勤務時間〕	13,922	11,680	11,680	11,680	11,750
備考	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に2名、計4名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に3名、システム担当業務に1名、計6名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に3名、システム担当業務に1名、計6名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に3名、システム担当業務に1名、庶務担当業務に1名計5名の「派遣職員」を採用。

注1 専任職員の()は内数で、女子の人数を示す。

注2 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

② 学生の閲覧座席数(2019年4月1日現在)

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,260	23,487	9.62	—	(千里山キャンパス) ① 学部 21,668名 ② 大学院 1,819名
高槻キャンパス図書館	235	2,274	10.33	—	(高槻キャンパス) ① 学部 2,090名 ② 大学院 184名
ミューズ大学図書館	134	1,145	11.70	—	(高槻ミューズキャンパス) ① 学部 1,100名 ② 大学院 45名
堺キャンパス図書館	272	1,349	20.16	—	(堺キャンパス) ① 学部 1,320名 ② 大学院 29名
計	2,901	28,255	10.27	—	① 学部 26,178名 ② 大学院 2,077名

③ 10年間の展示会テーマと会期

年 度	展示のテーマと講演会の演題		会 期
2009 年度	春季特別	「長谷川貞信—大阪の浮世絵師—」	2009 年 4 月 1 日～5 月 17 日
	秋季特別	「伊勢物語の世界」 記念講演会 「『伊勢物語』の成立と享受—展示品を中心に—」	2009 年 10 月 1 日～10 月 31 日 2009 年 10 月 20 日
2010 年度	特別展	「資料に描かれた象—渡来象を中心に—」	2010 年 4 月 1 日～5 月 16 日
2011 年度	特別展	「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」	2011 年 4 月 1 日～5 月 15 日
	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」	2011 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金)
2012 年度	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe」	2012 年 5 月 28 日(月)～6 月 11 日(月) (6 月 5 日(火)除く)
2013 年度	特別展	「なにわユーモア画譜」展特別企画としての「プレ展覧会 春爛漫コレクション」	2013 年 4 月 1 日(月)～4 月 8 日(月)
		大正葵丑蘭亭会百周年（おおさか）記念行事	2013 年 4 月 1 日(月)～5 月 19 日(日) (総合図書館第一会議室及び展示室)
	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「EU 諸国の言語に翻訳された日本の小説」	2013 年 6 月 3 日(月)～6 月 14 日(金)
2014 年度	図書館・博物館 連携企画展	関西大学名品万華鏡 —館選イチョシ！— (於：関西大学博物館)	2014 年 4 月 1 日(火)～5 月 18 日(日)
	関西大学図書館 創設 100 周年 記念展示	関西大学図書館 100 年のあゆみ展	2014 年 4 月 1 日(火)～5 月 18 日(日)
	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「アナザー・ワールド」	2014 年 6 月 30 日(月)～7 月 14 日(月)
	関西大学創立 130 周年記念 展示	科学と芸術—著名院士学者書法展—	2015 年 3 月 27 日(金)～4 月 23 日(木)
2015 年度	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「EU の Multilingualism」	2015 年 5 月 8 日(金)～5 月 24 日(日)
2016 年度	EUi 企画	日・EU フレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのカフェと文学」	2016 年 5 月 12 日(木)～5 月 26 日(木)
2017 年度	実施せず		
2018 年度	記念展示	「石濱純太郎とその学問・人脈」展	2018 年 10 月 22 日(月)～11 月 17 日(土)

注 1 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。

④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
奈良国立博物館	「国宝 春日大社のすべて」	2018 年 4 月 14 日 ～6 月 10 日	萬葉集 20 巻；巻第 19-20	CL25**1-1*10
大阪市立美術館 毎日新聞大阪本社	「江戸の戯画-鳥羽絵から北斎・ 国芳・暁斎まで」	2018 年 4 月 17 日 ～6 月 10 日	[顔見せ之図] 和漢名筆書本手鑑、6 巻 和漢名筆書本手鑑、6 巻 和漢名筆書本手鑑、6 巻 和漢名筆書本手鑑、6 巻 和漢名筆書本手鑑、6 巻 和漢名筆書本手鑑、6 巻 鳥羽繪欠び留、3 巻 鳥羽繪欠び留、3 巻 鳥羽繪欠び留、3 巻 鳥羽繪欠び留、3 巻 画話耳鳥斎、4 巻 1-2 画話耳鳥斎、4 巻 3-4	N8C2*721.8*21 *721.4*O2*3-1 *721.4*O2*3-2 *721.4*O2*3-3 *721.4*O2*3-4 *721.4*O2*3-5 *721.4*O2*3-6 *721.8*T9*1-1 *721.8*T9*1-2 *721.8*T9*1-3 L22*721**85 L22*721**86
公益財団法人広島市文 化財団広島城	「広島城・いきものずくし～人は こんなにも動物好き案件～」	2018 年 9 月 8 日 ～10 月 28 日	[象のかから版] 今度従関東御召被為登候象之形	C2*489.7**1 C2*210.56*K1*4
大阪歴史博物館	「大阪の米騒動と方面委員の誕 生」	2018 年 10 月 3 日 ～12 月 3 日	大正七年八月大阪二於ケル 騒擾（米騒動）事件概要	L22*210**118
池田市立歴史民俗資料 館	「クレハトリ・アヤハトリ—池田 に伝わる機織りの伝承—」	2018 年 10 月 12 日 ～12 月 2 日	佩文御物耕織図：1 巻 [1] 佩文御物耕織図：1 巻 [2] 日本書紀 30 巻 巻第 8-10 日本書紀 30 巻 巻第 14-15 集古十種 [82]	*616.2*K6*1 *616.2*K6*2 L25**1-122*5 L25**1-122*7 LH2*5**1-82
NHK 大阪放送局制作 部	歴史秘話ヒストリア「将軍吉宗の わがまま 江戸 1300 キロ象の旅」	2018 年 11 月 14 日 2018 年 11 月 17 日 (再放送)	[象之繪巻] 版画象之圖	C*721.8*Z1*1 C2*721.8*Z1*1

2 2018年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

	氏 名	備 考
規程第5条1号委員	新 井 泰 彦	委員長・図書館長
規程第5条2号委員	石 井 康 博	図書委員会委員（文学部選出）
	宇都宮 浄 人	図書委員会委員（経済学部選出）
	元 吉 忠 寛	図書委員会委員（社会安全学部選出） 2018年4月1日～2018年9月30日
	川 口 寿 裕	図書委員会委員（社会安全学部選出） 2018年10月1日～2019年3月31日
	石 垣 泰 輔	図書委員会委員（環境都市工学部選出）
規程第5条3号委員	山 崎 秀 樹	学術情報事務局長
規程第5条4号委員	久保田 真 也	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程第5条5号委員	濱 生 快 彦	図書館事務室
	坂 本 翼	図書館事務室
	藤 井 泰 彦	図書館事務室 2018年4月1日～2018年9月30日
	越 智 慎之助	図書館事務室 2018年10月1日～2019年3月31日

【事務局（図書館事務室）】 藤井 泰彦、越智 慎之助、畠山 勝代

3 関西大学図書館

自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣旨)

第1条 この規程は、関西大学図書館規程第7条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書館長に報告し、図書委員会の議を経て公表することができる。

(構成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
 - (2) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
 - (3) 学術情報事務局長
 - (4) 学術情報事務局次長（図書館担当）
 - (5) 図書館事務職員から若干名
- 2 図書館長が必要と認めた場合、2名以内に限り、図書委員会の議を経て大学内外の有識者に委員を委嘱することができる。

(委員長等)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は図書館長をもって充てる。副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第2号及び第5号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(運営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

2018年度図書館活動報告

1 図書委員会

第1回：2018年4月18日(水)

- 確認事項（図書委員会における代理出席の取扱について）
- 審議事項（2017年度図書費決算について、2018年度図書費予算について）
- 報告事項（学習用図書の選書協力について、冊子体雑誌の新規購入希望申請の結果について、メディアライブラリー所蔵の視聴覚資料の移管について、2018年度市民利用の受付結果について、図書館ミニ・ガイダンス5月の実施内容について、関西大学図書館 Twitter の開始について、その他）

第2回：2018年5月16日(水)

- 審議事項（なし）
- 報告事項（予算改革に関する取組の経緯について、OCLC WorldShare Interlibrary Loan GIF 加盟館向けオープンコンソーシアムの成立について、Science Advances APC 割引について、図書館ミニ・ガイダンス6月の実施内容について、その他）

第3回：2018年6月27日(水)

- 審議事項（専門部会設置について、法政大学図書館、明治大学図書館及び関西大学図書館との相互利用に関する申合せの締結について）
- 報告事項（研究用図書の購入希望について、図書館ミニ・ガイダンス7月の実施内容について、その他）

第4回：2018年7月18日(水)

- 審議事項（大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立大学学術情報センター図書館との雑誌バックナンバーの分担保存について）
- 報告事項（総合図書館書庫の狭隘化対策に関する要望書について、寄付収受について、その他）

第5回：2018年9月26日(水)

- 審議事項（2019年度図書費の予算申請について、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立大学学術情報センター図書館との雑誌バックナンバーの分担保存について、電子ジャーナルの継続中止について）
- 報告事項（高額資料の購入について、2018年度図書費予算執行状況（4月～8月）について、電子ジャーナル及びデータベースの利用統計について、学園祭期間中の図書館の休館について、図書館ミニ・ガイダンス10月の実施内容について、図書館学習支援講座「書評のスズメ！」の実施について、2020年度以降の図書費予算検討専門部会について、その他）

第6回：2018年10月17日(水)

- 確認事項（図書委員会における代理出席の取扱について）
- 審議事項（電子ジャーナルの継続中止について、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立大学学術情報センター図書館との雑誌バックナンバーの分担保存について）
- 報告事項（総合図書館主催展示・講演会の開催について、enjoy ebook everyday の実施結果について、総合図書館ラーニング・コモンズにおける利用者用パソコンの一時停止について、図書館ミニ・ガイダンス11月の実施内容について、Web of Science 講習会の実施について、三大学図書館連携企画「英語論文講座」の開催について、2020年度以降の図書費予算検討専門部会について、その他）

第7回：2018年11月21日(水)

- 審議事項（大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立大学学術情報センター図書館との雑誌バックナンバーの分担保存について）
- 報告事項（2019年度電子ジャーナル（パッケージ）及びデータベースの契約中止について、高額資料の購入について、2019年度関西大学図書館市民利用の募集について、図書館ミニ・ガイダンス12月の実施内容について、総合情報学部生対象ガイダンスについて、関西大学学術リポジトリ関係事項について、2020年度以降の図書費予算検討専門部会について、その他）

第8回：2018年12月19日(水)

- 審議事項（2019年度図書館開館日程（案）について）
- 報告事項（高額資料の購入について、文献相互利用（ILL）における校費料金立替処理3月分の運用について、2019年度学部一般入試期間中の図書館の利用について、2020年度以降の図書費予算検討専門部会について、その他）

第9回：2019年1月23日(火)

- 審議事項（2020年度以降の図書費予算のあり方について、図書館利用規程の一部改正について）
- 報告事項（高額資料の購入について、Emerald の利用代替手段等について、2018年度図書費予算執行状況（4月～12月）について、その他）

第10回：2019年2月20日(水)

- 審議事項（2020年度以降の図書費予算のあり方について）

- 報告事項（2019年度図書館ガイドランスについて、総合図書館利用者パソコンの更新に伴う利用制限について、特設ホームページ「新入生に贈る100冊〔電子版〕」の設置及び電子ブックの提供について）

第11回：2019年3月27日(水)

- 審議事項（2020年度以降の図書費予算のあり方について、「コア資料」としての教育用データベース選定について、2019年度私立大学等研究設備整備費等補助金に係る事業への応募について）
- 報告事項（総合図書館利用者用パソコンの運用について、図書館入退館機の更新について、ドキュメントデリバリーサービスの導入について、SciFinder講習会について）

2 2020年度以降の図書費予算検討専門部会

第1回：2018年7月24日(火)

- 議題（予算改革に関する経緯と取組実績、他大学の取組状況について、今後の検討が必要な論点について、その他）

第2回：2018年9月19日(水)

- 議題（冊子体図書費について、冊子体逐次刊行物及び電子ジャーナル・データベースの見直しについて、その他）

第3回：2018年10月3日(水)

- 議題（冊子体図書費について、冊子体逐次刊行物及び電子ジャーナル・データベースの見直しについて、その他）

第4回：2018年10月31日(水)

- 議題（冊子体逐次刊行物及び電子ジャーナル・データベースの見直しについて、その他）

第5回：2018年11月21日(水)

- 議題（電子ジャーナル・データベースの選択方法について、その他）

第6回：2018年12月12日(水)

- 議題（電子ジャーナルパッケージ・データベースの選択方法について、その他）

第7回：2018年12月14日(金)

- 議題（電子ジャーナルパッケージ・データベースの選択方法について、図書委員会への報告について、その他）

第8回：2018年12月19日(水)

- 議題（電子ジャーナルパッケージ・データベースの選択方法について、その他）

第9回：2019年1月18日(金)

- 議題（2020年度以降の図書費予算のあり方について（検討まとめ）、その他）

第10回：2019年2月19日(火)

- 議題（2020年度以降の図書費予算のあり方について

（検討まとめ）、その他）

3 図書館自己点検・評価委員会

第1回：2019年1月23日(水)

- 審議事項（大学部門委員会の体制及び機関別認証評価受審サイクル等に関するアンケートの実施について）

4 図書館会議

図書委員会開催の前週水曜日に図書館長と図書館職員で「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議している。

5 関西四大学図書館長会議

- 開催日：2018年9月3日(月)

- 場所：立命館大学（衣笠キャンパス）

平井嘉一郎記念図書館 1F カンファレンスルーム

- 出席者：関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学

(1) 報告事項

- ① 関西四大学図書館連絡会（2018.7.13開催）について
- ② 関西四大学図書館相互利用担当者会（2018.9.3開催）について
- ③ 関西四大学図書館職員研修会（2018.10.26開催）について

(2) 近況報告・情報交換

- ① 図書館の図書資料費予算
- ② 電子情報の利用および発信
- ③ 利用者サービス
- ④ 課題および将来計画
- ⑤ その他

(3) 質疑応答

6 セミナー・講習会等の開催

(1) 館内での講演会①

- 開催日：2018年6月22日(金)

• 演題：「地球の歩き方～制作の裏側から電子ブックの有効活用まで～」

- 講演者：ダイヤモンド・ビック社

地球の歩き方編集部本部長

奥 健氏

※電子ブックのTrial Reading「enjoy ebook everyday」の関連企画として実施

(2) 館内での講演会②

- 開催日：2018年12月5日(水)

• 演題：「ぼくが『キャプテン翼』をアラビア語に訳

しました。」

- ・講演者：紀伊國屋書店
カッサーマー M ウバーダ氏

※演題と同内容の企画展示の関連企画として実施

(3) 館内での講習会①

- ・開催日：2018年11月19日(月)
- ・演題：「学術データベース Web of Science」
- ・講演者：クラリベイト・アナリティクス・ジャパン
株式会社 石堂 きよみ氏

(4) 館内での講習会②

- ・開催日：2018年11月27日(火)
- ・演題：「社会科学系の英語論文のトレンドを知ろう」
- ・講演者：EBSCO Information Service Japan
花田 謙一氏

(5) 館内での研修会①

- ・開催日：2018年12月14日(金)
- ・演題：「CAT2020 概要・最新状況について」
- ・講演者：株式会社図書館流通センター
古河 千枝氏

(6) 館内での研修会②

- ・開催日：2019年2月13日(水)
- ・演題：「業務委託の仕組みについて
— 法令遵守の観点から —」
- ・講演者：紀伊國屋書店
ライブラリーサービス営業本部
関西ライブラリーサービス部
林 信弘氏

(7) 館内での講座①

- ・開催日：2018年6月27日(水)
- ・演題：「電子ブックの使い方講座」
- ・講演者：紀伊國屋書店及び丸善雄松堂
電子書籍担当者

※ KU コアラの主催により電子ブックの Trial Reading
「enjoy ebook everyday」の関連企画として実施

(8) 館内での講座②

- ・開催日：【第1回】2018年10月24日(水)
【第2回】2018年10月31日(水)
【第3回】2018年11月28日(水)
- ・演題：図書館学習支援講座「書評のススメ！」
- ・講演者：丸善雄松堂株式会社 / イシス編集学校 師
範代 大木 とも子氏、他

(9) 館内での講座③

- ・開催日：2018年12月7日(金)
- ・演題：総合情報学部版データベース徹底活用講座
- ・講演者：紀伊國屋書店 徳田 恵里氏

※高槻キャンパス図書館で実施

(10) 館内での展示①

- ・開催日：2018年9月3日(月)～9月30日(日)
- ・演題：吹田市協賛ミニ展示「すいたクールアース
ウィーク」
- ・場所：総合図書館2階 開架カウンター前

(11) 館内での展示②

- ・開催日：2018年10月22日(月)～11月17日(土)
- ・演題：「石濱純太郎とその学問・人脈」展
- ・場所：総合図書館1階 展示室

(12) 館内での展示③

- ・開催日：2018年11月12日(月)～12月22日(土)
- ・演題：企画展示「はくが『キャプテン翼』をアラ
ビア語に訳しました。」
- ・場所：総合図書館1階 ラーニングエリア

(13) 館内・館外での展示①

- ・開催日：2019年1月16日(水)～2月15日(金)
- ・演題：「書評のススメ！」における「本の帯」と
「書評」の展示
- ・場所：【館内】総合図書館2階 開架カウンター前
【館外】MARUZEN& ジュンク堂書店梅田
店1階「新刊・話題書の棚」の特設
コーナー

(14) 各種ガイダンス

図書館利用者教育の一環として、各種ガイダンスを実施した。

○「入門ガイダンス」

新入生のクラスを対象に図書館の使い方や蔵書検索方法を説明した。

- ・実施期間：春学期4月6日(金)～6月30日(土)

○「活用ガイダンス（定型内容による実施）」

レポートや論文作成に役立つ文献のさがし方及び
入手までの流れについて説明した。

- ・実施期間：春学期4月5日(木)～4月28日(土)

秋学期9月21日(金)～11月30日(金)

○「活用ガイダンス（自由選択方式による実施）」

前述の「定型内容」では取り上げない特定の専門
分野のデータベース（例：判例データベース、理工
系学部向けのデータベース等）について21種類のガ
イダンス項目から組み合わせ、カスタマイズできる
ガイダンスを実施した。

- ・実施期間：春学期5月1日(火)～6月30日(土)

秋学期9月21日(金)～11月30日(金)

○図書館ミニ・ガイダンス（自由参加型ガイダンス）

館内ツアーや蔵書検索方法、各種データベースの
使い方などを少人数の実習形式で学べるガイダンス
を実施した。

- ・実施期間：春学期 5月～7月

秋学期 10月～12月

7 規程・内規・要領の改正

- (1) 関西大学図書館利用規程の一部改正
 - 改正理由：「複写物の利用」及び「複写物の掲載・刊行・翻刻」に関して明記する。
 - 改正箇所：第 25 条、第 37 条
 - 改正内容：新旧対照表のとおり。
 - 改正施行期日：2019 年 4 月 1 日
- (2) 関西大学学術リポジトリ管理・運用規程の一部改正
 - 改正理由：2019 年 4 月 1 日付けの事務組織改編に伴う構成員の変更及び規程の改廃について明記する。
 - 改正箇所：第 3 条、第 19 条
 - 改正内容：新旧対照表のとおり。
 - 改正施行期日：2019 年 4 月 1 日
- (3) 図書館フォーラム投稿要項の一部改正
 - 改正理由：図書館フォーラムに掲載された著作物の学術リポジトリへの登録について明確にする。併せて軽微な文言の修正を行う。
 - 改正箇所：(3)(6)(7)
 - 改正内容：新旧対照表のとおり。
 - 改正施行期日：2019 年 2 月 13 日改正。
2020 年刊行予定の第 25 号から適用する。

図書館出版物案内

1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円 ※
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円
昭和35年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・穎原文庫目録……非売品 ※
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故穎原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円 ※
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円 ※
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田涉文庫目録……6,000円 ※
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田涉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円 ※
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品 ※
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 近世文書目録 ※
その一……1,350円、その二……2,000円
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。

- 大阪文芸資料目録……3,500円 ※
明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸人などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。
- 内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録……2,500円 ※
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5…非売品（ただし、No.1は品切）※
- 芝居番付目録……8,000円 ※
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 撰津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 撰津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou……非売品

3 図書館出版図書

- おおさか文藝書画展 図録……2,000円
平成6年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展—近世から近代へ—」の図録

注 ※印は関西大学図書館ウェブサイトの特典コレクションにて目録を公開している。
(<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>)

2018年度に改正のあった図書館諸規程

図書館利用規程

2019年4月1日改正分

改正の新旧対照表

現 行	改 正	適 用
第1条～第24条 <省略>	第1条～第24条 <省略> (複写物の利用)	条の追加 以下条の繰下げ
第25条～第35条 <省略>	第25条 複写物の利用を希望する者は、所定の手続きにより許可を受けなければならない。 第26条～第36条 <省略> (その他の利用サービス)	
第36条 <省略>	第37条 その他の利用サービスについては、別に定める。 第38条 <省略>	条の追加 条の繰下げ
	附 則 この規程(改正)は、2019年4月1日から施行する。	附則の追加

関西大学学術リポジトリ管理・運用規程

2019年4月1日改正分

改正の新旧対照表

現 行	改 正	摘 要
第1条・第2条 <省略> (委員会の構成)	第1条・第2条 <省略> (委員会の構成)	文言の削除 号の追加
第3条 <省略> (1)～(6) <省略> (7) 学長室次長(学長担当、研究推進担当)	第3条 <省略> (1)～(6) <省略> (7) 学長室次長 (8) 研究推進・社会連携事務局次長	
2 <省略>	2 <省略>	
第4条～第18条 <省略>	第4条～第18条 <省略> (規程の改廃)	条の追加 附則の追加
	第19条 この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。 附 則 この規程(改正)は、2019年4月1日から施行する。	

『図書館フォーラム』投稿要項

2019年4月1日改正分

改正の新旧対照表

現 行	改 正	適 用
『図書館フォーラム』投稿要項 制定 平成8年3月31日	『関西大学図書館フォーラム』投稿要項 制定 平成8年3月31日	文言の修正
『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。	概要を次のように定める。	文言の削除
(1)~(2)<省略>	(1)~(2)<省略>	
(3) 収 載 寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、 <u>収載順序</u> を図書館長が決める。	(3) 掲 載 予定の紙幅を超える寄稿があったときは、 <u>掲載する号</u> を図書館長が決定する。	文言の修正
(4)~(5)<省略>	(4)~(5)<省略>	
(6) 執筆要領 ア 本誌1ページにつき2,070字相当とする。 イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。	(6) 執筆要領 ア 本誌1ページにつき2,070字相当とする。 イ 原稿は横書き、電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体での提出を原則とし、手書き原稿も可とする。	文言の修正
ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、 <u>プレインテキスト (txt) 形式</u> もしくは <u>ワープロ (Word) 形式</u> を原則とする。	ウ 電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体で提出する場合は、 <u>プレインテキスト (txt) 形式</u> もしくは <u>ワープロ形式</u> を原則とする。	文言の修正
エ <u>ワープロを使用の場合は、1行を23字とし45行を1ページとして設定する。</u>		項の削除
オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。	エ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。	文言の修正
カ 原稿は次の順に記載する。 ①標題、②執筆者名、③本文、④注記、⑤引用文献、⑥参考文献、⑦執筆者名の読みがな・職名	オ 原稿は次の順に記載する。 ①標題、②執筆者名、③本文、④注記、⑤引用文献、⑥参考文献、⑦執筆者名の読みがな・職名	文言の修正
キ 原稿の表記は、次に従うものとする。 ①~③<省略>	カ 原稿の表記は、次に従うものとする。 ①~③<省略>	文言の修正
ク 図・表は、図1、図2、表1、表2、fig.1のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するときは、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図1、図2、表1、表2のように番号を鉛筆書きのこと。	キ 図・表は、図1、図2、表1、表2、fig.1のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するときは、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図1、図2、表1、表2のように番号を鉛筆書きのこと。	文言の修正
ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。	ク 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。	文言の修正
(7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について 本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。	(7) 掲載された著作物の著作権 掲載された著作物の著作権は、当該著作物に関する複製及び公衆送信を関西大学図書館に対して許諾したものとみなす。関西大学図書館が複製及び公衆送信を第三者に委託した場合も同様とする。	文言の修正
ア 関西大学図書館ウェブサイトにて公開されること イ 国立国会図書館が行う電子メディアに収録されること		
<平成21年12月1日改正>	<2019年2月13日改正：この要項(改正)は、2020年刊行予定の第25号から適用する。>	文言の修正

『関西大学図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 掲載

予定の紙幅を超える寄稿があったときは、掲載する号を図書館長が決定する。

(4) 謝礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館事務室（TEL 06-6368-1157）
電子メール（lib-ent@ml.kandai.jp）

(6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体での提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体で提出する場合は、ブレインテキスト（txt）形式もしくはワープロ形式を原則とする。
- エ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- オ 原稿は次の順に記載する。
 - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- カ 原稿の表記は、次に従うものとする。
 - ① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」「、」を用いる。
 - ② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。
 - ③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

筆署名“論文標題”『雑誌名』巻（号）、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名“論文標題”『書名』（図書の著編者名）出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名『書名』出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す（印刷では、イタリック体活字になる）。

[例]Downs, Robert B. “How to start a library school.”
ALA Bulletin 52 (6), 1995.6, pp.32-48.

e. インターネット上の文献

著者名“文献標題”[参照年月日]（URL）

[例]永沼博道“21世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克”[参照 2003.1.20]

(URL http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?action=common_download_main&upload_id=508)

キ 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ク 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載された著作物の著作権

掲載された著作物の著者は、当該著作物に関する複製及び公衆送信を関西大学図書館に対して許諾したものとみなす。関西大学図書館が複製及び公衆送信を第三者に委託した場合も同様とする。

以上

2019 年 2 月 13 日改正（この要項（改正）は、2020 年刊行予定の第 25 号から適用する。）

編集後記

例年よりは遅れましたが、この度、図書館フォーラム第24号が無事に刊行される運びとなったことは、編集担当一同、誠に喜ばしく思っております。無事に発刊することができたのには、図書館事務室内の皆さんをはじめとする関係各位のご協力のたまものです。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回のフォーラムに掲載している原稿は、2018年度の出来事を対象に執筆したものです。2018年度の特筆すべき点としては、①ラーニング・コモンズの運用を完全に業務委託による運用に移行、②メディアライブラリー所蔵の視聴覚資料を総合図書館へ移管し、総合図書館開架カウンターにて利用提供を開始、③「enjoy ebook everyday—いつでもどこでも電子ブッカー」と題して半年間期間限定で約4万タイトルの電子ブックの試読サービスを実施、④半年間の試験運用期間を経た後に図書館公式ツイッターを運用開始、⑤図書館学習支援講座「書評のススメ！」の開催、⑥高騰する誌代対策を検討するために「2020年度以降の図書費予算検討専門部会」を設置しての検討案のとりまとめ、⑦書庫狭隘化対策としての大阪市立大学、大阪府立大学との雑誌バックナンバーの分担保存における各館分担保存タイトルの決定とマイクロ資料保管庫跡地への電動集密書架の増設、⑧ユニバーサルデザインを考慮した“だれでもトイレ（多目的トイレ）”のリニューアル工事等を実施した点です。また、2018年度は、6月18日に発生した大阪府北部地震をはじめとして多くの自然災害とそれに伴う図書館の臨時閉館を度々経験した年でした。6月の地震による被害状況の写真を「サ・エ・ラ」に掲載しています。

今回発行するフォーラムが、少しでも多くの方々に目を通していただければと願うとともに、今後とも、関西大学図書館を、そして図書館フォーラムをご愛顧いただきますようよろしくお願いいたします。

(藤井)

図書館フォーラム編集担当
坂本 翼・広瀬 雅子・藤井 泰彦

関西大学 図書館フォーラム 第24号 (2019)

2019年10月31日発行

編集・発行 関西大学図書館
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-1157
<http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>

制作 (株)遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325



Kansai University
Library Forum